

官報

號外 昭和十年二月一日

○第六十七回衆議院議事速記録第九號

昭和十年一月三十一日(木曜日)

午後一時十四分開議

議事日程 第八號

昭和十年一月三十一日

午後一時開議

第一 日本銀行納付金法中改正法律案(政府提出)

第一讀會

第二 國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第三 造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

第四 東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出)

第一讀會

一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑(前會ノ續)

○議長(濱田國松君) 諸般ノ報告ヲ致サセマス

(書記官朗讀)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

日本銀行金買入法中改正法律案

(以上一月三十日提出)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一 政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

日本銀行納付金法中改正法律案

(以上一月二十六日提出)

一 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

競争入札ノ取締等ニ關スル法律案

提出者 福田關次郎君

民事訴訟法中改正法律案

提出者 竹下 文隆君

大正九年法律第五十六號中改正法律案

(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

提出者 東 武君 丸山 浪彌君

林 路一君 壽原英太郎君

田中喜代松君 松尾 孝之君

大正九年法律第五十六號中改正法律案

(北海道拓殖鐵道補助ニ關スル件)

提出者 山本 厚三君 坂東幸太郎君

手代木隆吉君 大島 寅吉君

小池 仁郎君

自動車交通事業法中改正法律案

提出者

上田 孝吉君

板野 友造君

中井 一夫君

野方 次郎君

森田 政義君

鷺野米太郎君

刑事訴訟法中改正法律案

提出者

牧野 良三君

名川 侃市君

中井 一夫君

上野 基三君

牧野 賤男君

民事訴訟法中改正法律案

提出者

牧野 良三君

名川 侃市君

中井 一夫君

上野 基三君

牧野 賤男君

衛生組合法案

提出者

鷺野米太郎君

中井 一夫君

中野種一郎君

傳染病豫防法中改正法律案

提出者

鷺野米太郎君

中井 一夫君

中野種一郎君

未成年者飲酒禁止法中改正法律案

提出者

杉山元治郎君

星島 二郎君

(以上一月二十九日提出)

司法代書人法中改正法律案

提出者

野田文一郎君

衛生組合法案

提出者

野田文一郎君

百貨店法案

提出者

野田文一郎君

中川 觀秀君

(以上一月三十日提出)

大阪市内貫通西成線高架改築ニ關スル建築案

提出者

上田 孝吉君

青田 勝晴君

(以上一月二十九日提出)

一去二十九日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第九部選出豫算委員 風見 章君

一昨三十日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第九部選出豫算委員 高橋壽太郎君(風見章君補)

豫算委員

一昨三十日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常任委員左ノ如シ

第四部選出豫算委員 塩月 學君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一、日本銀行納付金法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——大藏政務次官矢吹省三君

第一 日本銀行納付金法中改正法律案

(政府提出) 第一讀會

日本銀行納付金法中改正法律案

日本銀行納付金法中左ノ通改正ス

第三項中「及營業收益稅法ニ依ル純益」ヲ

「營業收益稅法ニ依ル純益及臨時利得稅

法ニ依ル利益」ニ改ム

附則

本法ハ日本銀行昭和十年前事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

(政府委員男爵矢吹省三君登壇)

○政府委員(男爵矢吹省三君) 只今議題ト

ナリマシタ日本銀行納付金法中改正法律案

ニ付テ説明致シマス、現行ノ日本銀行納付

金法ニ依リマスレバ、日本銀行ニ對シテ、

所得稅及營業收益稅ヲ課スルニ當リマシテ

ハ、右納付金ハ之ヲ同行ノ損金トシテ取扱フ

コトニナツテ居ルノデアリマスガ、曩ニ本議

會ニ提案致シマシタル臨時利得稅法ニ依ル

課稅ニ付キマシテモ、右同様ノ取扱ヲ爲ス

必要ガアリマスノデ、是ガ爲ニ本改正案ヲ

提出致シタ次第デアリマス、御審議ノ上御

協賛アランコトヲ望ミマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ハアリマ

セス、本案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

ニ付テ御諮リヲ申上ゲマス

○青木雷三郎君 本案ハ政府提出、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ

ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第二、

國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法

律案ノ第一讀會ヲ開キマス——外務大臣廣

田弘毅君

第二 國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案

國際文化事業ニ關シ必要ナル經費ヲ支辨

スル爲政府ハ當分ノ内毎年度該經費ノ豫

算定額ニ相當スル金額ヲ限リ大正十二年

法律第三十六號ニ依ル特別會計ニ屬スル

資金ヲ繰替使用スルコトヲ得

附則

本法ハ昭和十年度ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣廣田弘毅君登壇)

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今議題トナリ

マシタ國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關

スル法律案提出ノ理由ヲ御説明致シマス、

國際間ノ理解ヲ進ムル爲ニハ、各國相互ニ

其獨自ノ文化ヲ了解セシムルコトガ與ッテ

力アリマスノミナラズ、諸外國ニ於キマシ

テモ、我國ノ文化ヲ知ラントスル風潮ガ起ッ

テ參リマシタノデアリマスノデ、政府ハ昨

年以來朝野相應ジ、日本文化海外宣傳ノ施

設ニ著手シテ居ッタノデアリマスガ、國際聯

盟脫退後ノ形勢ハ、益、此種ノ施設ノ必要ヲ

痛感致シマスノデ、今回昭和十年年度ノ豫算

ニ於キマシテモ、之ニ關スル經費百萬元ヲ

計上シタノデアリマス、而シテ是ガ經費ノ

支辨ニ付キマシテハ、大正十二年法律第三

十六號ニ依ル特別會計ニ屬スル資金ヲ、其

情況ニ鑑ミマシテ、當分ノ中繰替使用スル

コトヲ適當ト認メマシタノデ、本法律案ヲ

提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上

御協賛アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマ

ス、順次之ヲ許シマス——中村嘉壽君

(中村嘉壽君登壇)

○中村嘉壽君 只今議題ニ付セラレマシタ

國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法

律案ニ付キマシテ、私ハ政府ノ所信ヲ御伺

致シタイノデアリマス、國際文化事業ヲ世

界各國ガ盛ニ行ツテ居リマスコト、竝ニ近來

東洋ノ文化、特ニ日本ノ文化ヲ知ラント欲

シテ居ルガ故ニ、斯様ナ施設ガ必要デアル

ト云フ御説明ハ、只今外務大臣ノ御話ニ依ッ

テ、其片鱗ヲ知ルコトガ出來マシタガ、此

施設ノ行ハレニ付キマシテハ、政府ガ果

シテドノ程度ノ信念ヲ有ツテオヤリニナ

ルカ、又是ガ實行ノ方法ニ付テハ、如何ナ

ハ、各省ノ大臣竝ニ其屬僚達ガ是ト相協力

シ、調和ヲ保ツコトデナケレバ、決シテ此

目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス

カラ、成ベク此處ニ御出デノ他ノ大臣方

モ、私ノ質問ノ中ニ其所管ニ關スルコトガ

アリマシタナラバ、是非御答辯ヲ御願申シ

タイノデアリマス

由來此文化事業ニ對シマシテ、我ガ日本

ノ外務省竝ニ朝野各方面ガ、今日マデ無關

心デアッタト云フコトヲ、私ハ甚ダ遺憾ニ考

ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、僅ニ昨年

頃カラ二十萬圓ノ支出ヲ致シ、今年ニナリ

マシテカラ百萬圓ノ支出ヲシヨウト云フコ

トデゴザイマスガ、各國ノ例ヲ見マスルト

云フト、之ニ對シマシテハ頗ル多額ノ費用

ヲ使ツテ居リマス、例ヘバ獨逸ガ七百六十萬

圓、佛蘭西ガ八百四十二萬圓ヲ使ツテ、伊太

利ガ八百三十萬圓ヲ、西班牙ノ如キハ小サ

ナ國デモ二百萬圓ヲ使ツテ居ルト云フ狀態

デアリマス、ソレニモ拘ラズ今マデ無關心

デアッタト云フコトハ、外務當局ガ甚ダ怠慢

デアッタト私ハ存ズル次第デアリマス(拍

手) 此事ニ付キマシテハ私自ラガ非常ニ痛

切ニ感じテ居リマシテ、過去數十年ノ私ノ

生活ニ於テ、常ニ我ガ日本ヲ各國ニ理解サ

セナケレバナラスト云フコトニ、力ヲ盡シ

テ居ッタノデアリマス、殊ニ最近私ハ此文化

事業ニ付テ頻ニ努力ヲシテ居ルノデゴザイ

果ガアルト云フコトヲ知ラナイダケデハナ
イ、或時ニハ之ニ妨害ヲ加ヘタコトスラアッ
タノデアリマス、私ハ今更之ヲ彼此レ咎メ
立テラスルコトハ致シマセスガ、遲シト雖
モ昨年来之ニ何カシヨウト云フ御考が出
タコトヲ以テ、私ハ満足シナケレバナラヌ
ト存ジテ居リマスガ、私共ノ文化外交トデ
モ申シマスカ、此施設ニ付テ考ヘテ居リマ
スコトハ、非常ニ根柢ノ深いモノガアルノ
デアリマス、得テ政府ノ行ヒマスコトハ唯
表面ヲ作ッテ、文化外交ト云フ言葉ガ盛ニ行
ハレルカラ、茲ニ文化局ヲ作ラウトカ、文
化振興會ヲ作ラウトカ、何カ少シバカリ御
化粧ヲ付ケテ、是デオ茶ヲ濁サウト云フヤ
リ方ガ多い、今日ノ廣田外務大臣ハ左様ナ
淺薄ナ御考デハアリマスマイガ、多ク左様
ナ例ガアルノデアリマス、故ニ私ハ特ニ茲
ニ認識ヲ深メテ戴キ、信念ヲ強メテ戴イ
テ、我が當局ノミナラズ國民一般、又各當
局ガ「コーオペレート」シテ戴キタイと思フ
ノデアリマス、私ノ見解ヲ以テシマスルト
云フト、實ハ各國ノ理解ヲ最モ良クスルニ
ハ、お互ノ違ッテ考ヲ合一サセナケレバナ
スノデアアル、今我が日本人ニ對シ、東洋人
ニ對シマシテ世界各國ノ人々ガ偏見ヲ有ッ
テ居ルコトハ、皆サン方ガ御承知ノ通りデ
アル、世界ノ各國ハ恰モ白人ガ獨占スルカ
ノ如キ考ヲ有ッテ居ル、近來ハ稍、違ッテ參
リツ、ハゴザイマスケレドモ、白人デナケ
レバ人間デナイカノ如ク考ヘ、基督敎信者
デケレバ人間デナイカノ如ク考ヘテ居ッ

時代ガアリマシタガ、斯様ナ見解ヲ是正シ
テ、人ハ神様ノ前ニハ總テ平等デアルト
云フ考ヲ有タシメナクチャナラヌ、而シテ
吾々モ生キルコトガ必要デアアル如ク、彼等
モ生キルコトガ必要デアアル如ク、皆ガ平
等ダト云フ觀念ヲ有タセルコトガ、此文化
事業ノ最後ノ目的デナケレバナラヌト私ハ
思フノデアリマス、考ヘヤウニ依リマシテ
ハ文化事業、或ハ文化工作ト云フコトハ、
國防ノ先驅トモ申スベキモノダと思フノデ
アリマス、國防ニ對シテ金ガ不足デアルト
カ、多過ギルトカ云フヤウナコトガ、屢、此
議場ニ於テ論議サレテ居ルノデアリマスル
ガ、唯吾々ノ觀念ニアル國防ダケガ國防ヂ
ヤナイ、成ベク經濟的ニスル爲ニハ、世界
ノ各國ガ吾々ヲ理解シテ呉レテ、吾々ヲ差
別待遇ヲセナイト云フヤウナ所マデ持ッテ
行カナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ
今日マデ國民モ當局モ、此點ニ力ヲ盡サナ
カッタ、皆サン方一度海外ニ足ヲ御入レニ
ナリマスト云フト、吾々ト彼等ノ考方ノ
相違ヲ直チニ發見ナサルデアリマセウ、非
常ナ相違ガアル、此相違ニ依ッテ色々ナ誤
解ガ出來ルノデアアル、人ト人トノ關係モ、
國家ト國家トノ關係モ、少シモ變ッタコト
ハナイ、個人ト個人トノ間ノ交際ノ上手ナ
人ナラバ、國家ト國家トノ間ノ交際モ亦好ク
シ得ルノデアリマス、所ガ其根本ニ觸レタ
考方ヲシナイ、私ハ屢、之ヲ例ニスルノデゴ
ザイマスガ、吾々ガ分リ易イヤウナ極メテ
手近ナ例ヲ申上ゲマスルナラバ、吾々ガ物

ヲ勘定スルニ指ノ頭カラ勘定スル、彼等
ハ小指ノ頭カラ勘定スル、吾々ハ人ヲ魔
クノニ、掌ヲ下ニシテ魔クガ、彼等ハ其反
對ニ掌ヲ上ニシテ魔ク、吾々ハ右カラ字ヲ
書クガ、彼等ハ左カラ字ヲ書ク、吾々ハ自
分ノ子供ヲ評スルニ豚兒ト言ヒ、自分ノ妻
ヲ稱ヘルノニ愚妻ト云フ言葉ヲ用ヒルガ、
左様ナコトヲ申シマシテモ、彼等ハ之ヲ理
解シ得ナイノデアアル、何ガ爲ニ愚妻ト言
ヒ、豚兒ト言フノカ理解シ得ナイ、彼等ハ
自分ノ子供ガ利口デアルト信ズルナラバ、
之ヲ利口デアルト言フノデアアル、自分ノ妻
ガ美シイナラバ、自分ノ妻ハ世界第一ノ美
人デアルト云フコトヲ平氣デ言フノデア
アル、自分ノ欲スル所ノモノハ之ヲ露骨ニ現
ハス、然ルニ我が日本ノ習慣ト致シマシ
テ、東洋ノ道德ト致シマシテハ、持ッテ居ル
モノハ成ルベク知ラセナイデ置カウ、知ラ
セナイデ置カウト云フコトハ詰リ自分カラ
見セビラカシヲシヨウトカ、自分ノ知識ヲ
世間ニ發表シテ、自己宣傳ヲヤラウト云フヤ
ウナコトヲ不徳ナリトシテ居ルノデアリマ
ス、茲ニ非常ナ相違ガアルノデアアル、彼等
ガ言フガ如ク、自分ノ家内ガドウデアアル
ノ、自分ノ子供ガドウデアアルノト言フナラ
バ、日本デハ直チニ親馬鹿チヤンリンダ
ノ、或ハ妻ノロト云フヤウナ惡罵ヲ浴セラ
レルノデアアル、日々ノ生活ニ左様ナ非常ニ
相違ガアルノデアリマス、私ガ今舉ゲマシ
タ少數ノ例デモ御分リニナルヤウニ、彼等
ト吾々トハ總テノ考方ニ於テ左様ナ相違ガ

アル、此相違ヲ知ルコトナクシテ交際ヲ
ヤツタリ、交渉ヲヤツタリ致シマス、吾々
ガ常ニ敗ケヲ取ルノデアアル
御承知ノ通り白色人種トデモ申シマス
カ「コーカサス」人種ノ人々ハ極メテ物質的
ニハ敏イ考ヲ有ッテ居ル、若シ自分ガ欲スル
ナラバ、此領土ガ欲シイ、此物ガ欲シイ、
此金ガ欲シイト云フコトヲ露骨ニ説明スル
ル、何カ交渉スルナラバ是ハドウシテ呉
レルノダト云フコトガ彼等ノ言ヒ分デア
アル、然ルニ我が日本人ノ考カラ見マスルナ
ラバ、俺ハ要求ヲシナクテモ相手ガ之ヲ與
ヘテ呉レルデアラウト云フヤウナコトヲ豫
期シテ居ル、謎デ言ッテ居ル、諷勸デ言ッ
テ居ル、吾々御互ノ間ナラソレデ出來ルノ
デス、諷勸ニ依ッテ、一寸シタ「ヒント」ヲ與
ヘルコトニ依ッテ、自分ノ欲スル所ヲ得ルノ
デゴザイマスケレドモ、彼等ハ其方面ニ於
テハサウ鋭敏デハナイ、甚ダ鈍感ナノデア
リマス、吾々ガ禮儀トスル所ヲ彼等ハ禮儀
ト思ハナイ所ガアリ、彼等ノ禮儀トスル所
ヲ吾々ハ禮儀トセナイト云フヤウナ所ガ非
常ニ澤山アリマス、之ヲお互ガ徹底的ニ知
リマシタナラバ、色々ナ争ト云フモノガ非
常ニ少クナルダラウト私ハ思フノデアリマ
ス、是ハ獨リ西洋各國トノ間ダケデハナ
イ、日本ガ朝鮮ヲ治メルニ於テ、或ハ又滿
洲國トノ國交ヲ爲スニ於テ、支那トノ國交
ニ於テ、臺灣領有ノ時ニ於テ、色々ナ争ノ
出來タト云フコトハ、即チ彼等ノ制度、習
慣、文物ト云フモノヲ知ラナカッタコトニ

依ッテ、非常ニ故障ノ起ツタコトハ、皆様方ガ疾ニ御承知ノコトデアラウト思フノデアリマス、斯様ナコトヲオ五ガ知り合フト云フコトガ必要デアル、外務當局殊ニ外務省ニ職ヲ奉ジテ居ル人々ハ、斯様ナコトヲ專ラ能ク御研究相成ラナケレバナラヌノデゴザイマスルガ、遺憾ナガラソコマデ徹底スルヤウナ制度モ出来テ居ナケレバ、ソコマデ徹底シテ日本ノ國家ニ盡サウ、或ハ國際關係ニ貢獻シヨウト云フヤウナ考ノ人ガ、非常ニ少イト私ハ思ッテ居ルノデアリマス、一昨年我ガ日本ガ國際聯盟ヲ脱退致シマシテカラハ、特ニ廣田外相ガ言ハレマシタヤウニ、各國トノ間ニ各、獨特ノ交渉ヲ開キ、而シテ國際聯盟ノ當時ヨリモ、ヨリ大キナ效果ヲ擧ゲヨウト云フコトガ、御趣旨デアラウト思ヒマスルガ、サウデアアルナラバ、此文化事業ニ依ッテ特ニ御努力相成ルコトガ、私ハ必要デハナイカト存ズルノデアリマス、私ハ常ニ考ヘテ居リマスコトハ、若シ斯ノ如クニシテ諒解ニ努メマシタナラバ、必シモ日本ハ孤立ノ状態デハナイノデアル、能ク世間デハ日本ハ各國カラ孤立ニサレテ居ルト云フヤウナコトヲ申シマスケレドモ、必シモ私ハサウ信ジマセス、人々ニ依ッテハ、惡意ヲ以テ日本ヲ孤立無援ニ爲サウト云フ人モアルカモ知レナイ、ケレドモ人々ニ依リマシテハ、日本ト成ベク實際ヲ好クシテ、日本ノ力ヲ借ラウ、是ト實際ヲシヨウト云フヤウナ國々ガ、非常ニ澤山アルト思フノデアリマス、謂ハ、快クナイ者モ半

分アルカ知ラヌガ、快イ所ノ者モ亦半分アルノデアリマスカラ、日本ノ政府當局、國民ノ考方ガソコニ及ンデ、協力一致致シマシタナラバ、世界ノ各國ヲ皆味方ニ爲シ得ルモンダト私ハ信ジテ居リマス、例ヘバ吾々ハ米國ヲ見マスト云フト、直チニ米國ハ日本ト戰フ考ヲ有ッテ居ルンダノ、或ハ又日本ヲ輕蔑スルンダノト云フヤウナコトヲ申シマスケレドモ、是モ彼等ニ理解ラセシメルコトヲ考ヘマシタナラバ、必シモサウデハナイト思フ、例ヘバ一ツノ米國ニ付テ考ヘマシテモ、吾々ハ條約ニ依ッテ與ヘラレタル所ノ權利ヲ主張スルコトニ落度ガアツタ、此議會デ、私ハ一昨年デアリマシタカ、申上ゲタコトガゴザイマシタガ、移民ノ制限ヲ行ハレテ居ルノデアリマスルガ、移民ノ制限ガ行ハレテ居リマシテモ、若シ從來ノ通商貿易條約ト云フモノヲ完全ニ行フコトニ政府當局ガ忠實デアリ、之ヲ行使スルコトニ在外ノ使臣ガ若シ丹念デアリマシタナラバ、今亞米利加ニ多數ノ人々ハ行キ得ナイノデアリマスケレドモ、本當ハアノ「トリード」即チ商賣ニ從事シテ居ルト云フヤウナ條項ノ下ニ、年ニ千人ヤ二千人送レナイコトハナイ、是ハ私ハ屢、力説シタノデゴザイマスルガ——又斯様ナ條項ニ依ッテ支那ハ能ク之ヲ利用致シマシテ、相當ニ多數ノ人間ヲ入レテ居ル、斯ウ云フヤウナコトガ習ヒニナリマシテ、今マデ入レナカッタト云フコトガ、非常ニ缺陷ニナッテ居リマス、斯様ナ風ニ既ニ出来テ居ル所ノ條約、

出来テ居ル所ノ色々ナ要素ト云フモノヲ、完全ニ働カセルト云フコトガ出来マシタナラバ、此點ニ於テ相當ニ活路ガ拓ケルデアラウト思フノデアリマス

一昨年ノ議場ニ於テ、日本ノ外交官ハ支那ノ外交官程活動ヲセナイト云フコトヲ、私ガ例ヲ擧ゲテ申シマシタ所ガ、内田——當時ノ外相ハ色ヲ赤ク爲シテ、非常ニ憤慨サレタノデゴザイマスルガ、私ハ今日ニ於テモ矢張左様ナ感じガスル、一昨年、一昨年デアリマシタカ、柳條溝事件ガ起リマシタ時ニ、私ハ加州ニ居ッテ、其當時支那ノ使臣ノ人々、支那ノ實業家達ハ盛ニ日本ノ惡宣傳ヲ行ッテ居ル、情報モドシ——ヤッテ來マスケレドモ、日本ノ外交官ハ少シモ之ヲ爲サナイ、四日ノ後ニ外務省カラ情報ガヤッテ來テ、之ヲ外ニ出シテ見ルト、其時ハ「ニュース」價值ガナイト云フコトデ、新聞ガ少シモ用ヒナカッタ、昨日ノ豫算委員會ニ於キマシテ、島田俊雄君ノ言ハレマシタコトモ其通りデ、一ツノ例デアルト思ヒマス、例ヘバ此間アノ熱河方面ニ起ッテ居ルコトヲ、各國デハ之ヲ惡材料ニ使ッテ居リマスケレドモ、若シ日本ノ當局ナリ、或ハ其他ノ機關ニ於キマシテ、逸早く其情報ヲ出シテ居リマシタナラバ、惡宣傳ヲサセ

實デアリマシタナラバ、日本ノ立場ヲ惡クスルコトナクシテ、盛ニ我ガ日本ト云フモノヲ知ラシメ、認識セシムルコトガ出来ルト私ハ思フノデアリマス、左様ナ所ニ非常ニ缺陷ガ現ハレテ居リマス、私ハ今米國ノ例ヲ引キマシタガ、英吉利ト雖モ其通りデアアル、一部ニ於テハ英吉利ヲ憎ム人々ガアル、長イ間ノ歴史ヲ有ッテ居リ、長イ間外交的ニハ色々ナ手練手管モ覺エテ居リマセウケレドモ、吾々共カラ見マスト——狭イ所モアルカモ知レナイケレドモ、彼等ハ昔ハ日英同盟ヲ拵ヘテ、サウシテ自ラモ利シ、日本ニ對シテモ何カラ與ヘヨウト云フヤウナ考ヲ有ッテ、二期ノ間日英同盟ト云フモノガ行ハレテ、其間ニ處シマシテ日露戰爭ガ行ハレタリ、我ガ日本モ相當ニ此利益ヲ蒙ッテ居ルト私ハ信ジテ居リマス、斯様ナ風ノコトガ、今ニモ彼等ノ頭ニハ殘ッテ居ル、私ハ昨年モ申上ゲマシタガ「カンタベリー」ノ大僧正ナンカハ、濠洲ノ一部分ヲ日本ニ與ヘテ、此日本ノ移民問題ヲ何トカ解決スルガ宜イデヤナイカト云フヤウナコトヲ言ッテ居ル、是ハ「カンタベリー」ノ大僧正ダケデハナイ、他ニモ澤山アル、私ハ加奈陀ニ行ッテ、或ル勞働黨ノ首領ト會ッテ見マスト、彼ハ斯ノ如ク言ッテ居ル、日本ノ今日ノ行儀ミト云フモノハ何カト云フト人口問題ダ、此人口問題ヲバ日本ダケノ問題デアルト考ヘル所ニ病根ガアル、日本デ若シ人口問題デ行詰リガ生ズルナラバ、是ハ獨リ日本ダケノ行詰リデハナイ、世界ノ行詰リデアルカラ、

日本ノ人口問題ト云フコトハ、各國ガ寄ッテ集ッテ解決シテヤラナケレバナラス、遊ンデ居ル土地ガアルナラバ、之ヲ日本ニ開放スルガ宜シイデハナイカト云フコトヲ、盛ニ勞働黨ノ首領ガ左様ナコトヲ私ニ言ッテ居ッタ

ノデアリマスガ、左様ナ空氣ハ決シテ一部分ダケデヤナイ、世界到ル所ノ人々ニ此日本ノ生活困難ノ事情、又人口問題ノ行詰ッテ居ルコトヲ了解セシメシタナラバ——彼等ノ生キルコトガ必要デアルト同時ニ、吾モ亦生存スル權利ヲ有ッテ居ルノデアアル、之ヲ彼等ニ分ラシメシタナラバ、彼等ハ必ズ了解シテ呉レルダラウト私ハ思フノデアリマス、最近蘭領印度ニ行ッテ見タノデゴザイマスルガ、アノ方面ニ致シマシテモ、吾々ノ行クベキ途ハ幾ラデモアルノデアリマス、又濠洲ノ方面ニモ澤山行クベキ途ガアルノデアリマス、私共ハ若シ交渉ノ宜シキヲ得マシタナラバ、濠洲ノヤウナ所ニ日本ノ人口問題解決ノ爲ニ、或ハ貿易ヲ盛ニスルト云フ爲ニ、斯ウ云フ所ヲ開放スルナラバ、日英同盟ヲ復活スルノモ亦少シモ差支ナイデハナイカト私ハ考ヘテ居ル、佛蘭西ニ就テ見マスと云フト、東洋ノ方面ニハ佛領印度ト云フモノヲ有ッテ居ル、是モ亦必シモ日本ト喧嘩シヨウト云フ考ハ持タナイ、日佛ノ間ニ「アンタント」ヲ作ルト云フコトモ決シテ困難ナコトデハナイダラウト私ハ思フノデアリマス、況ヤ其他ノ國々ニ於キマシテハ、好シデ日本ト喧嘩シヨウトカ戦ヲシヨウト云フ考ヲ有ッテ居ルモノデヤ

ナイ、今日日本ガ孤立無援ニナッタト云フコトハ、彼等ノ態度ニ良クナイ所モアリマシタラウケレドモ、我ガ日本ノ人々ガ自ラ垣根ヲ結ハシメツ、アッタト云フコトニ氣付カナケレバナラスノデアリマス

先程カラ申上デマスヤウニ、彼等ハ積極的ニ自ラ進ムベキ所、求ムベキ所ヲ擱ムト云フ考ヲ有ッテ之ヲ實行シテ居リマスケレドモ、日本ノ人々ハ舊來ノ道德ノ缺陷デアリマス、習慣デアリマス——成ベクハ言ハナイデ居ッテ、人ニ與ヘサセヨウト云フヤウナ謎ト、ソレカラ諷刺デ行カウト致シマスカラ、之ヲ理解スル東洋人ナラバ宜シイガ、理解シナイ所ノ人々ニ謎ト諷刺ヲ以テ政治ヲヤラウトカ、外交ヲヤラウトスル所ニ間違ガアルト私ハ思フノデアリマス、斯様ナ點ヲ是正スルヤウニ、國家總動員ヲ爲サル必要ガアル、私共外務省一部ヲノミ批評スルノデハナイ、外務省一部ヲ見マシテモ其通りデアル、廣田外相ハ外交工作ヲヤリ、平和工作デナケレバナラスと云フコトヲ頻ニ強調シテ居ラレマスルガ、又部下ノ人々モ其通りデアリマセウガ、吾々ガ岡目八目デ見マスと云フト、廣田外相ノ御考ガ、必シモ行ハレテ居ナイ所ガアル、何カ良イ仕事ガ出来ヨウトスルナラバ、内輪ノ方カラ、意識ガアツテカナイカ知リマセヌケレドモ、兎モ角ソコニ支障ガ起ッテ來ルト云フコトガ屢、アル、斯様ナ所ヲ私ハ是サレル必要ガアルト存ジマス、又外務大臣ガ何カ良イ事ヲシヨウト思ヒマシテモ、内務關係ノ警

視廳ノ人々ガ、外國人ヲ取扱フノニ無禮ナコトヲシテ見タリ、或ハ又是ハ意識ガアツテカナイカハ知リマセヌガ、知識ガアツテカ無クテカ知ラナイガ、兎モ角之ニ依ッテ感情ヲ損ッテ、折角良イ關係ノ出來ルモノヲ打壞スト云フコトモアル、文部大臣ニシマシテモ其通りデアル、文部省ノ所管ニ於キマシテ、若シ海外ノ人々ヲ取扱フト云フコトニ付テ、一種ノ本當ニ何カ正シイ見方、正シイ訓練ノ方法ガアリマシタナラバ、私ハ非常ナ助けヲスルダラウト思ヒマス、松田文部大臣ハ「ママ」「ババ」ト云フ言葉ガ惡イト御話ヲサレマシタガ、私モ其通りデアルト

思フ、吾々ノ持タナイモノナラバ「ランブ」デアラウガ何デアラウガ、外國ノモノモ必要デアラウガ、父母ト云フ言葉ガアルノ「ババ」「トカ」「ママ」トカ云フ氣障ナ言葉ヲ持ッテ來ルコトハ、私ハ少クトモ宜クナイト思ッテ居リマシテ、其點ハ非常ニ合致スルノデアリマスガ、同時ニ他面ヲ見テ戴キタイ、動トモ致シマス、學校ノ教育ニ依リマシテ、外國人ヲ待遇スルコトニ甚ダ行キ足ラヌ所ガアル、其習慣カラ「此毛唐ガ」ト言ッテ見タリ「此チヤンコロガ」ト言ッテ見タリスルヤウナコトガ往々出テ來ル、斯様ナ小サナ日々ノコトカラ、私ハ改メテ行カヌトイケナイト思フノデアリマス(拍手)

若シ此各國ノ關係ヲ見マシタナラバ、大キナ戦サシタカラ是ガ永久ニ仲ガ惡イト云フモノデハナイ、支那ト日本ハ戦サシマシタケレドモ、必シモ永久ニ仲ガ惡イト

云フモノデハナイト思フ、露西亞ト日本トモ戦サシマシタケレドモ、必シモ是ガ永久ニ敵同士デハナカラウト思フ、一番何ガ影響スルカト云フト、日々ノ行動一ツデアリマス、お互ノ間デモ其通りデアル、彼奴ガ俺ヲ侮辱シテ居ルトカ、彼奴ハ禮儀ヲ知ラナイトカ云フコトガ一番ノ害ヲ爲スガ如ク、支那ノ人々ガ日本ニ反感ヲ有ツト云フコトハ何カト云フト、此邊ノ下宿屋ニ居ルト「アノ支那人サン」トカ「アノチヤンコロガ」トカ言ッタリ、又下宿屋ニ行クト暗イ所ニ入レテ見タリ、或ハ髮床屋ヤ蕎麥屋ニ行クト後ニ廻サレル、斯様ナ小サナコトガ非常ナ害ヲ爲スノデアリマス(拍手)亞米利加トノ間ニ於テモ其通り、吾々ハ吾々自ラ考ヘテ見マス、亞米利加ト戦サシタコトモアリマセヌケレドモ、亞米利加ガタツタ僅ニ百二十三名ノ日本ノ移民ヲ入レルト云フコトニ對シマシテ、世界ノ各國ト不平等ナ移民規則ヲ作ツタ、此反感、百人ヤ二百人亞米利加ニ入レヨウガ入レマイガ、左様ナコトハ大シタ問題デハナイ、ケレドモ彼等ガ斯様ナ差別待遇ヲスル爲ニ、日本人ノ面目ヲ傷ツケルト云フコトガ吾々ノ頭ニ殘ッテ居ル、是ガ即チ大キナ軍備ノ必要ニナツテ來ルコトニナル、是ガ即チ色々ナ方面ニ金ヲ餘計使ハナクチヤナラス、感情ノ疎隔ヲ來スト云フコトニナツテ來ルノデアアル、彼等ガ吾々ニ對スル「ジャップ」ト云フ言葉ガ、如何ニ吾々ノ耳障リニナツテ、如何ニ是ガ反

撃ヲ加ヘタクナリ、反感ヲ増ス所以デア
カト云フコトヲ考ヘル時ニ、極メテ小サナ
日常ノ生活カラ改メテ行カクチャナラヌ
ト思フ、私ハ西洋カブレヲセヨト言フノデ
ハナイ、唯世界ノ人々ト吾々ノ習慣トガ違
フノデアアルカラ、國民全體ガ左様ニナラ
クトモ、少クトモ外務當局ニ居ル人々、或ハ
政府ノ局ニ在ル人々ハ、斯様ナ各國ノ心理
状態ヲ學ビ、而シテ各國ニ害ヲ爲シ、或ハ
侮辱ヲ與ヘルト云フヤウナコトヲセナイ方
ガ宜イ、自分ガ侮辱ヲ欲シナイナラバ、各
國ニ對シテモ侮辱ヲ與ヘナイ方ガ私ハ好
ト思フ、此意味ニ於キマシテ往年日本ニ來
テ、各國ノ人々ガ寫眞ヲ撮ツタ、是ガ直チニ
「スパイ」デアッタト云フヤウナコト、是ガ害
ヲ爲シタコトハ非常ニ多イノデアリマス、
サウ云フヤウナコトハ若シ過チガアッタナ
ラバ、撤回スルト云フヤウナコトヲサレル
ガ宜シイ、私ハ總テノ方面ニ於キマシテ斯
様ナ「コーオペレーション」ガナケレバナラ
ヌト思ヒマスカラ、單ニ外務大臣ノミナラ
ズ、内務大臣モ、文部大臣モ、商工大臣モ、
色々ナコトニ協力ヲナサル必要ガアルト思
ヒマス

似寄ツタモノデアアル、ドツチガドツチカ分ラナ
イヤウナモノデアアル、謂ハ、日本ヲ各國ニ
紹介シヨウト云フ宣傳機關デアアル、同時ニ
世界ノ色々ナ事情ヲ玆ニ吸收シテ、日本ニ
バラ撒カウト云フ宣傳機關ダト私ハ思ヒマ
スガ、是ニハ文化事業部ダケデハイケナイ、
情報部モ一緒ニナルガ宜シイ、鐵道省ノ觀光
局モ一緒ニナルガ宜シイ、鐵道省ノ觀光局ナ
ド、云フモノハ、最モ是ト協力シナケレバ
ナラス所デアアル、然ルニ是等ガバラ／＼ニ
ナツテ居リマシテ、僅カバカリノ金ヲ以テ、
サウシテ無益ナ方面ニ使ツテ見タリ、或ハ間
違ツタ方面ニ使ツテ見タリ、其局ニ當ツテ居ル
人々ハ、唯觀光客ガ御座レト言ツテ形ヲ作
テ居ルノミデアツテ、本當ノ仕事ヲセナイト
云フヤウナコトガ澤山アル、之ニ付テハ後
日私ハ其當局ニ向ツテ、質ス所モアルト思ッ
テ居リマスガ、今日ハ是デ此點ハ省略シテ
置キマスケレドモ、兎モ角斯様ナ所ガ協力
一致シテ行クト云フコトヲサレナケレバイ
カス、果シテ政府ハ左様ナ見地カラ、各省
ガ一致シ、大キナ機關ニシテ、本當ニ間違
ノナイ、今日ノヤウナ財政窮迫シタ時代ニ
於キマシテハ、一文ノ金ハ一文ニ使フヤウ
ニシナケレバナラス、凡ソ金ノ使ヒ方ヲ知
ラナイヤウナ、又敵ノ陣營ヲ知ラナイヤウ
ナコトデハ、戦サモ出来ナケレバ、事業モ
出来ナイノデアアル、私ハ名醫ト云フモノハ
何カト言ウタナラバ、高イ藥ヲ盛ルノガ名
醫ヂヤナイ、正シイ診察ガ出来ル人デアアル、
何病デアアルト云フ病根ヲ發見スル人ガ、非

常ナ名醫デアアラウト私ハ思ツテ居リマス、日
本ノ柔道ノヤウナモノデアアル、柔道ガ何處
ヲ突ケバ敵ノ力ヲバ自分デ利用スルコトガ
出来ルカト云フ所ニ柔道ノ強味ガアル、ソ
レヲ知ラナイデ何モ出来ルモノデハナイ、
陸軍海軍ニ於テ戰サラスル時ニハ、敵ノ將
軍ハ勿論ノコト、下士卒ニ至ルマデノ人間
ノ「サイコロジ」カラ、習慣カラ、色々ノ
コトヲ學ンデ、此敵ニハ之ヲ當テレバ宜シ
イ、アノ敵ニハアレヲ當テレバ宜シイト云
フ所マデ研究シテ居ルト私ハ信ジテ居リマ
ス、ソレ故ニ戰サニハ強イノデアアル、所ガ
多クノ役所ニ於テハ、左様ナコトヂヤナイ
コトガ非常ニ多イ、特ニ私ガ能ク知ツテ居ル
外務省ヲ見マスト云フト、金ノ足ラヌト云
フコトモアリマセウ、人ノ足ラヌト云フコ
トモアリマセウガ、左様ナコトハ金ヲ餘計
取レバ宜シイ、大藏大臣ハ此爲ニ必要トア
ルナラバ、能ク金ヲ使フコトヲ知ツタ政府ナ
ラバ、幾ラデモ金ヲ出スト云フコトヲ言ツテ
居ラレルノデアアル、是モ取レバ宜シイ、昨
年ノ議會ニ於テ大藏省カラ金ヲ取ルダケノ
外交手腕ノナイ人ハ、決シテ立派ナ外交官
デナイト云フコトヲ私ハ言ツタノデアリマ
スガ、其通りデアアル、外國ノ人々トハ尙更
ニ交渉ガムツカシイト私ハ思フ、サウ云フ
ヤウナコトデ此協力ヲサレル御考ガアルカ
ドウカ、ドウシテモ斯様ナ機關ト云フモノ
ハ一ツノ省ニシテバモ宜シイカラ、日本ノ
文化ヲ世界ニ知ラセヨウト云フコトニ、御
努力ニナル必要ガアルト私ハ思フノデアアル、

左様ナコトデ私ハ玆ニ例ヲ擧ゲテ見マスル
ガ、戰サニ日本ガ強イト云フコトハ誰デモ
知ツテ居ル、誰デモ世界ノ各國ハ日本ガ戰サ
ニ強イト云フコトハ知ツテ居リマスケレド
モ、日本ガ立派ナ「サイエンス」ヲ有ツテ居
ル、日本ガ立派ナ文化ヲ有ツテ居ル、立派ナ
精神ヲ有ツテ居ルト云フコトニ極メテ疎イ
ノデアリマス、御承知ノ通り野口英世ト云
フ學者デ、私共ノ友人ガ紐育ニ居ツタ、此野
口英世君ガ一人人生レテ、アノ研究ヲシタ爲
ニ、一ツノ戰サヲシタヨリモ、ヨリ大キナ
日本認識ノ材料ニナツタト私ハ信ジテ居リ
マス（拍手）世界ノ人々ガ日本ノ人道ト云フ
モノヲ知ツテ呉レタノハ、赤十字ノ方ニ日本
ガ關係スルヤウニナツタ一番大キナ原因ヲ
爲シタガ、ソレハ何デアッタカト云フト、ア
ノ朝鮮征伐ノ後ニ島津義弘公ガ、敵味方ノ
墓ヲ高野山ニ造ラレタト云フ、此一ツノ事
件ニ依ツテ彼等ガ日本ノ道德觀念、人道主義
ト云フコトヲ分ツテ呉レタノデアリマス、斯
様ナ方面ニ力ヲ盡シマシタナラバ、マダ／＼
幾ラデモサウ云フヤウナコトガアラウト思
フノデゴザイマスカラ、斯ウ云フ方面ニ、
一ツ御努力ヲナサル御考ガアルノカドウカ、
サウシテ之ヲ徹底セシメテ戴キタイ、百萬
圓ナント云フ金デハ碌スッポナコトハ出来
ナイト思ヒマス、ケレドモ昨年二十萬圓出シ
テ、今年百萬圓出スト云フコトニ付テハ、
或ハ人モ揃ヘタリ、其他準備モアリマセウ
ナ人々ヲ揃ヘタリ、其他準備モアリマセウ
カラ、今ハ百萬圓デ宜イカモ知レナイガ、

人ヲ擯ヘラレタナラバ、世界各國ガ使ッテ居ルガ如クウント活動サセテ、民間、政府當局、其他色々ナ人ガ綜合シタカラ、此問題ノ上ニ現ハサレト云フコトガ、必要デアラウト思ヒマスカラ、私ハ之ヲ一千万圓ニナルモ宜シイト思フ、二千万圓ニナルト云フコトモ亦宜カラウト思フ、但シ斯様ナ金ガ本當ニ、完全ニ働ケルヤウニシテ戴キタイ、ソレニハ外務省ニシマシテモ、鐵道省ニシマシテモ、或ハ其他各部門ニ於キマシテモ、協力一致スルヤウナ組織ニシテ戴キタイ、人選ヲ能クシテ戴キタイ

此際特ニ私ハ外務大臣ニ又御伺ヲシテ見タイト思ヒマスコトハ、外務省ノ人事ニ付テ、先程私ハ不満足ナ所ガアルコトヲ申上ダマシタガ、毎年々々試験ニ依ッテ外務省ノ人ヲ選バレル、一年ニ十二人カ十三人探ルト云フ爲ニ、何百名ト云フ志願者ガアルト云フコトデアリマスルガ、此十數名ノ人々ハ、成程立派ナ、優秀ナ人々ニ違ヒハナイ、大學ヲ出テ一番良イ人達ガ來ルガ、皆テ是ガ外務省ニ入ッテ外ハ出マスト、十數名ノ人達ハ、餘程間拔ケナ者デナケレバ、皆大使マデハ成リ得ル、今日デハ日本ノ大使館ガ九ツカ十アル、十三名入ッテナラバ其中三四名ハ死ンデシマフカラ、後ノ者ハ皆大使ニ成レルト云フ勘定ニナッテ居リマス、各省ハサウ云フモノデヤナイ、内務省ニシテモ其他ニシマシテモ、文官試験ヲ受ケテ入ッタ人達ハ、段々是ガ精選サレ、競争ガ起ッテ、サウシテ良キモノニナッテ行キマスケレドモ、

外務省ノ人々ハ、最初入ッテカラ訓練モ乏シイシ、競争モ少イ、外國ニ行ッテ日本内地ノ事情ヲ知ラナイ、斯ウ云フヤウナ状態ニナッテ居リマスカラ、入ッタ時ノ素質ハ良イケレドモ、訓練ガ出來ナイ爲ニ、或ハ日本ト云フ事情ヲ知ラナイ爲ニ、彼等ノ與ヘラレタル天職ニ忠實ニ働キ得ナイト云フコトガアルノデアリマス、斯ウ云フモノハ資格試験ヲサレマシテ、十二三名探ルナラバ、五十名モ八十名モ御探リニナッテ、其中カラ外務省ニ入ル人モ、其他ニ入ル人モアルト云フヤウナ風ニ、試験制度ノ改革ヲナサル御考ガアルカドウカ、サウ云フコトヲ私ハ御伺シタイノデアリマス

更ニ外務大臣ニ御伺シタイト思ヒマスコトハ、此事業ハドウシテモ民間ヲ動サナイトイケナイ、外務省ガ自ラ仕事ヲシマスト云フト、ソコニハ非常ナ過チガ生ジテ來ル、手モ足ラナイ、専門ノ知識ヲ有ッタ人モナイ、惡イ言葉カ知レマセヌケレドモ、少シノ政府ノ手助ニ依リマシテ、民間ノ人々ヲ煽テ、働カセマスト、全國ノ人々ガ國際文化事業ト云フコトニ自ラ金ヲ投ジ、時間ヲ無駄ニシテモ働ク人ガアル、我が日本ニモ決シテ人間ガ少イノデヤナイ、之ヲ外務省ガ喜ビ、世間ガ喜ビ、日本ト各國トノ間ガ好クナルト云フコトノ認識ガ出來マシタナラバ、恐ラク翕然トシテ之ヲ援ケル人ガ出テ來ヤウト思ヒマスケレドモ、外務省ダケガ、何カ一ツノ仕事ヲヤラウト云フヤウナコトデハ、決シテ満足ナ仕事ハ出來ナイト

私ハ思フノデアリマスガ、此點ニ付テハ恐ラク私ト同ジヤウナ御考ダラウト思ヒマスルガ、外務省ハ果シテ私共ノ考ヘルガ如ク、日本ノ全國民ヲ總動員スルダケノ御考ガアルカドウカ、斯ウ云フ點ヲ御伺シテ見タイト思フノデアリマス、先ヅ是ダケヲ御伺致シマシテ、更ニ此問題ニ付キマシテハ、他ノ機會ニ於テ御尋スルコトモアラウト思ヒマスルガ、先ヅ是ダケヲ一ツ御伺致シマス(拍手)

(國務大臣廣田弘毅君登壇)

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今中村君ノ御述ニナツタコトヲ私ハ謹聽致シテ居リマシテ、何カ私ノ考ヲ更ニ附加ヘナケレバナラヌ點ガアルカドウカト云フコトヲ考ヘテ見タノデアリマスガ、殆ド其必要ヲ認メナイノデアリマス、尙ホ其中ニ私ノ意見ヲ御質問ニナツタ點ニ付キマシテモ、色々中村君ノ御考ヲ述ベラレタ點ガアルノデアリマス、私ハソレ等ノ點ニ付キマシテモ、大體私ノ考ヘテ居ル點ト一致シテ居ルカノヤウニ思フノデアリマシテ、茲ニ特ニ申上ゲルコトモナイト實ハ感ズルヤウナ次第デアリマス、併ナガラ其中ニ此文化事業ト云フモノニ付テ、私が非常ナ熱心ヲ以テ進ンデ参リタイト思ッテ居ル點ハ、茲ニハッキリ私ハ申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、尙ホ此事業ヲ致シマスニ付キマシテ、日本内部ノ機關ニ付テ、未ダ各方面トノ連絡ガ十分デナイ點ハナイカ、又外務省内部ニ於テモ其邊ニ注意スベキ點ガアルノデハナイカト云フ

點デアリマスガ、是モ洵ニ尤モナ點デアリマシテ、私ノ直接關係シテ居リマス外務省内部ニ於キマシテモ、情報部ノ如キ、文化事業ニ關スルモノ、如キ仕事ノ上ニ於キマシテ、非常ニ密接ナ關係ガアリマスノミナラズ、機關今ノ儘ノ、不統一ノ状態ニ置クコトハ如何デアアルカト云フコトモ考ヘテ居ル次第デアリマス、隨ヒマシテ先ヅ外務省内部カラ陣立ヲ致シマシテ、徐々ニ他ノ方面トノ連絡モ取ル必要ガ十分ニアルト思フノデアリマス、其爲ニ諸外國ノ例ニ見マシテモ、マダ〳〵百万圓ヤ二百万圓デ此事業ガ出來ルモノデハナイト思フノデアリマス、今日迄ノ状態ハ、要スルニ其基礎工事ニ外ナラナイノデアリマス、尙ホ之ヲ實際ニ運用シテ参リマスニ付キマシテモ、民間各方面ノ協力ノ必要ナルコトハ勿論デアリマシテ、御承知ノ通り外交官ト云フモノハ、日本ノ普通ノ狀態デ申シマスト、大學教育ヲ經テ試験ヲ以テ入ッテ來ルガ、其間ニ日本ニ關スル知識ヲ得マシタ點モ、甚ダ不十分デアルト思フノデアリマス、殊ニソレガ外交官ニナリマシテ、外務省ノ事務ニ携ッテ居リマス間ニ特ニ勉強シテ、相當ニ日本ノ文化ニ付テ了解ヲ得ルコトニ努ムル必要モアルデアラウト思ヒマスケレドモ、ソレハ甚ダ不十分デアルト思ヒマス、隨ヒマシテ日本人ノ本質、日本文化其他各方面ノ優秀ナル點ヲ外國ニ紹介スルコト云フヤウナコトハ、到底外交官ノ手デ出來ルモノデナイト私ハ思フノデアリマス、隨ヒマシテ是ハ民間各方面

ノ、ソレハ有力ナル人々ニ依ツテ、眞ニ日本ノ模範トシテ外國ニ意見ヲ發表シ、或ハ其美術品ヲ展覽ニ供スルカ、サウ云フヤウナコトデ具體的ノ問題デ日本ヲ紹介スルト云フコトガ、私ハ大ニ必要デアラウト思フノデアリマス、其點カラ參リマスルト、此文化事業ノ大部分ハ、外務省デハ其本ノ事務ノ統一ヲヤルト云フ程度ニ過ギナイノデ、其他ハ殆ド全部國民ノ各方面ノ協力ニ俟タネバナラスト思フノデアリマス

尙ホ外務省ノ人事ニ付キマシテ、私ノ意見ヲ御求メニナリマシタガ、外交官ヲ採用スルニ付テ、或ハ資格試験ノ方法ニ依ルノガ適當デハナイカ、是モ曾テハ一度實行シタコトガアルノデアリマスガ、其當時ハ相當外務省ニ豫算ノ餘裕モアリマシテ、社會ノ經濟狀態ノ良好ナル場合ニハ、相當餘裕アル人ノ採用ノ途モアツタノデアリマスルガ、今日ノ如キ切詰メタル豫算デハ、中其點ガ實ハ困難ニ感ズルノデアリマス、併ナガラサウ云フコトヲ申シテ居リマシテモ、此外外交官ノ養成ニハ是ハ特殊ノ努力ヲ要スルコトデアリマスノデ、外務省ト致シマシテモ、十分其點ニハ留意致シタイト思フノデ、現ニ其一ツノ方法トシテ、最近試ムルコトニ決定致シマシタコトハ、從來ハ外交官ト云フモノハ、原則ト致シマシテ試験制度ニ依ル方法ニ依ツタノデアリマスガ、ドウモソレデハ外國ニ於テ勉強ヲシ、其國ノ事情、其他言葉ニモ精通シテ居ル立派ナ青年モ多數アルコトデアリマスカラ、此試

驗制度ヲ根本的ニ壊スト云フコトハ、無論考物デアリマスガ、サウ云フ人材ノ採用ノ途モ考ヘマシテ、從來ハ此英獨佛等ノ言葉ノ國ニハ、翻譯官ト云フ制度ハ設ケナイコトニナツタノデアリマスケレドモ、是カラハサウ云フ國ニ付テモ翻譯官ノ制度ヲ採用シマシテ、サウ云フ外國ニ於ケル教育ヲ受ケタ人ニモ、自然規定ノ試験ニ依ラズシテ、臨時採用ノ途ヲ開クコトニ致シタノデアリマス、斯ノ如キ方法ヲ採リマシテ、出來ルダケ此外外交官ノ養成ニハ力ヲ注ギタイト思ツテ居ル次第デアリマス、尙ホ何レ此文化事業ノ内容其他ニ付キマシテハ、追テ委員會ニ於テ詳シク更ニ申上グル機會モアルコト、存ジマスノデ、今ノ中村君ノ御質疑ニ對シテハ、是ダケヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 中村君御質問アリマセヌカ

○中村嘉壽君 簡單デアリマスカラ此席カラ……

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○中村嘉壽君 廣田外相ノ御話ハ大要分リマシタガ、更ニ私ハ御尋致シタイト思ヒマスコトハ、日本ノ外交舞臺ニ入りマシテカラ「ゴールデンエージ」トデモ申シマセウカ、一番華カデアツタ時代ハ、外國ニ留學ヲシタ人間——例ヘバ小村侯爵ノ如キ、金子伯爵ノ如キ、或ハ牧野伯爵、珍田伯爵ノ如キ、サウ云フヤウナ人々ガ遺憾ナク働カサレル機會ヲ有ツテ居ラレタ當時デアリマス、

然ルニ最近ニ至リマススト云フト、斯様ナ言葉ニ堪能デアリ、外國ノ習慣、文物ヲ能ク考ヘテ居ル、知ツタ人々ガ外務部ニ入門スルコトガ出來ナイヤウナ風ニ私ニハ見エルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ人ヲ働カセルヤウナコトヲセナケレバ、中々容易ナコトデヤナイ、私ハ必シモ亞米利加デ生レテ、亞米利加デ育ツタ者ガ宜イ、亞米利加人ノ如ク、外國人ノ如ク考ヘル人間ヲ外交官ニ使ヘトハ言ハナイケレドモ、日本ノ事モ相當ニ知り、而シテ向フノ事モ相當ニ知ツテ、即チ和魂洋才トデモ申シマスカ、西洋ノ儀式ヤ習慣ヲ心得タ人々ヲ活用サレルコトヲ考ヘラレルコトガ必要ダト思フノデアリマス、日本ノ今日ノ外交社會ノ缺陷ハソコニアルト思フ、斯ウ云フ所ヲ是正サレル御考ガアルカドウカ、是モモウ一遍御伺ヒシタイト思フノデアリマス、更ニ此各省ガ協力ヲサレルト云フコトニ付キマシテ、先ヅ文部大臣ハ如何ニ御考ニナリマスカ、又文化事業部ト鐵道省ノ國際觀光局トヲ併合サセルカ、何カ連絡ヲ保ツコトニ依リマシテ活動スルト云フコトニ付キマシテ、内田鐵道大臣ハ何ト御考ニナリマスカ、更ニ此處ニ大臣ハ御出デニナリマセスケレドモ、大藏省ノ方針ハ、唯金ヲ堰切ルト云フコトダケデハナラナイ、適當ニ、本當ニ有效ニ使フト云フコトデアアルナラバ、金ヲ御出シニナルコトハ吝デナイト思フガ、斯ウ云フコトデ能ク屬僚ト屬僚トノ間ノ爭デ、外務省ノ爲サウト云フコトガ出來ナイト云フコトガ

往々アルノデアリマス、大臣ハ諒解スルケレドモ、主計局長ガ分ラストカ、其外ノ課長ガ分ラストカ云フヤウナコトデ、金ヲ取レナイトカ云フヤウナコトガアリマスルガ、大藏省ハ大ニ考ヘテ戴キタイト私思考シマスルガ、之ニ對シテ大藏當局ノ御意見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

(國務大臣廣田弘毅君登壇)

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今中村君カラ更ニ御質問ニ相成リマシタケレドモ、實ハ曩ニ其意味ノ私ノ意見ヲ述ベタノデアリマス、從來總テ試験制度ヲ原則ト致シテ居リマシタガ、將來ハ外國ノ教育ヲ受ケタ人ノ爲ニハ、特ニ特別任用ノ制度ヲ翻譯官或ハ通譯官ノ名義ヲ以テ實行スル考デアリマスノデ、此點ハ外務省ト致シマシテハ、從來ノ弊害ヲ除ク一ツノ新シイ試ミデアルト思フノデ、必ズヤ是ガ良好ナル成績ヲ擧ゲルニ至ルデアラウト私ハ信ジテ居ル次第デアリマス(拍手)

(國務大臣松田源治君登壇)

○國務大臣(松田源治君) 御答致シマス、國際文化事業ニ付テハ、文部省ノ關スル限リ十分協力スル積リデアリマス(拍手)

(國務大臣内田信也君登壇)

○國務大臣(内田信也君) 只今中村君ノ御尋ニナリマシタル鐵道省所管ノ觀光局事業ト、外務省所管ノ文化事業部ト連絡ヲ能ク執ラナケレバイカス、執ツテ居ルカ、又此二者ヲ一緒ニスル意思ハナイカト云フ御尋デゴザイマスガ、鐵道省所管ノ觀光局ハ、御

承知ノ通り外人誘致ヲ目的ト致シテ居リマスノデ、廣義ニ申セバ外務省ノ文化事業部ト同一ノヤウニ感ゼラレマスガ、狹義ニ解釋致シマスレバ、其間相當ノ相違ガアルノデアリマス、併シ大體ニ於テ一緒ノ事業デアリマスガ故ニ、中村君ノ仰セノ通り、此兩者ハ緊密ナル連絡ヲ執ル必要ガアリマスノデ、常ニ其點ニ付テハ注意致シテ居リマスガ、得テシテ役所ノ仕事ハ、サウ完全ニ連絡ヲ全ウスルト云フコトガ缺ケル點ガアリマスノデ、中村君ノ豐富ナル御經驗カラ御覽ナサツタナラバ、嚙カシア、モシタラ宜カラウ、斯ウモシタラ宜カラウト云フ缺點ヲ御發見ニナルコト、存ジマスルガ故ニ、私ト致シマシテハ、之ヲ一緒ニシマセヌマデモ、能ク兩者ノ連絡ヲ此上一層緊密ニシ、更ニ民間ニ於ケル其種ノ事業ニ知識ヲ有シ、御體験ヲ有スル方々ノ御力ト御協力ヲ得テ、所謂御役所仕事ニ陥ラヌヤウニ今後注意スル積リデゴザイマス(拍手)

(政府委員男爵矢吹省三君登壇)

○政府委員(男爵矢吹省三君) 中村君ヨリ國際文化事業ニ關シテ、大藏省ハ將來金ヲ出スコトニ付テ考ガアルカドウカト云フヤウナ御質問デアリマシタ、國際文化事業ノ非常ニ必要ナルコトハ、大藏省トシテモ十分認メテ居リマスノデ、今年ノ十年度ノ外務省豫算ノ内ニモ計上サレタ位デアリマシテ、將來ニ於テモ其必要アリマシタ場合ニ於テ、出來ルダケノ考慮ヲ致ス積リデ居リマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告者松田竹千代君

(松田竹千代君登壇)

○松田竹千代君 國際文化事業ニ關スル經費支辨ニ關スル法律案ニ付テ、私ハ外務大臣外關係大臣ニ質問ヲ致シマスガ、既ニ質疑應答ガアリマシテ、大臣モ御熱心ニ御説明下サリマシタノデ、大體本案ノ全貌ガ分ツテ參リマシタニモ拘ラズ、私ハ重ネテ此處ニ立ッテ質問致サウトスル所以ノモノハ、私ハ此事業ニ容易ナモノデナイ、ダカラシテ之ヲ議會ヲ通ジテ國民ノ間ニ出來得ルダケ知ラシメテ、國民ノ理解ト同情ノアル、言換ヘレバ國民ノ力ニ依ッテ此目的ヲ達成セシメタイト云フ、此微意ニ外ナラナイノデゴザイマスルカラ、餘リ長クモアリマセヌカラ、御清聽ヲ煩シタイト思フノデアリマス(拍手)

私ノ質問ノ要點ハ、中村君モ尋ネラレマシタガ、四點デアリマス、第一ハ此事業ニ對スル外務大臣ノ信念ノ問題、第二ハ指導精神ヲ何處ニ置クカト云フ問題、第三ハ財源竝ニ資金ノ問題、第四ハ運営ノ方法デアリマス、世界ノ文明諸國ニ於キマシテハ、大臣モ御説明ニナリマシタヤウニ、自國文化ノ精粹ハ之ヲ廣ク中外ニ顯揚致シマシテ、以テ自國ノ立場ヲ確保シ、之ヲ向上シテ行カウト云フコトニ努メルノデアリマシテ、是ガ爲ニ列國ハ非常ナ努力ヲシテ來テ居ル、即チ莫大ナ金ヲ使ッテ色々ナル施設ヲ施シテ來テ居ルヤウナ次第デアリマス、然ルニ

我が日本ハ明治以來今日マデ、餘リニモ外國ノ文化ヲ採入レルコトニノミ急デアッタガ爲ニ、自國ノ文化ガ如何ニ優レタモノデアリ、精練サレタモノデアルカト云フコトニ對シテ、聊カ自覺ヲ缺クノ憾ガアッタ(拍手)隨テ之ヲ中外ニ宣揚スルト云フコトニ努メル努力ガナカッタ、サウスルコトニ依ッテ、自他共ニ裨益スルコトガ出來ルノニ拘ラズ、其努力ガナカッタ云フコトハ、大ニ憾トスル所デゴザイマス(拍手)若シ我國ニシテ早クカラ此點ニ著眼致シテ居リマシテ、適當ナル所ノ措置ヲ講ジテ大ニ努メテ來タトシマスナラバ、私ハ彼ノ滿洲事變ノ際ノ如キモ、或ハ又國際聯盟脫退ノ時ニモ、我國ニ對スル世界列國、殊ニ彼ノ「バルカン」ヤ或ハ南歐ノ彼ノ小サナ諸國ノ我國ニ對スル認識ト云フモノハ、アレ程マデニ貧弱ナ、我國ニ對スル誤解ト云フモノハアレ程マデニ甚シイモノデナカッタデアラウトサヘ、私ハ想像出來ルト思フ(拍手)然ルニ此度外務大臣ハ相當ノ御決心ヲ以テ、遲延ナガラ外務省ノ國際文化事業部ヲ擴大スル、之ニ對シテ私ハ深ク敬意ヲ表シタイト思フ、併ナガラ繰返シテ申サユデアリマスルガ、此事業ノ目的ノ崇高デアリ、サウシテ且ツ遠大デアル點カラ考ヘテ見マシテモ、是ハ並ミ大抵ノ事デハナイ、容易ニ出來ル仕事デハナイト私ハ考ヘル、生半可ナコトナラバヤラヌガ宜シイ、富豪ガ御上品ノ道樂トシテ、國際的慈善事業ヲヤルヤウナ御考デハ、到底私ハ此目的ヲ達スルコトハ出來ヌ

ト思フ、又金ダケヲ幾ラ餘計使ッテモ、其效果ト云フモノハ直チニ現レテ來ルモノデハナイ、サウ云フ性質ノ仕事デアル、デアリマスルカラ、是ハ最も純真ナル動機ニ基イテ、極メテ氣長ニ、而モ相當莫大ナ金ヲ使ッテ行カナケレバナラヌト云フ仕事デアル、斯様ナ仕事アリマスルカラ、外務大臣ハ此仕事ヲ始メテ行カウト云フニハ、餘程ノ御決心ヲ以テヤラナケレバナラヌト私ハ信念ハ、先程御答ヘ下サツタカラ、重ネテ御述べ下サラヌデモ宜シイガ、信念ヲ餘程シカリ持ッテ居ナケレバ、此國際的醇化運動ト云フベキ此仕事ハ、私ハ寧ロ始メラレルモノデナイト思フ、大臣ノ熱意ノ程ヲ御伺スル次第デアリマス

次ニ私ハ此事業ノ原動力ト云ヒマスカ、力ハ一體何處カラ出發サレテ來ルモノデアルカ、言換ヘレバ、指導精神ヲ何處ニ置クカト云フ問題デアル、私ハ此事業ノ根本精神ト云フモノハ、是ハ直チニ以テ我が日本ノ國ノ世界政策ノ基本精神トモナルベキモノデナクテハナラヌト考ヘテ居ル、ソレ故ニドウシテモ眞ノ日本精神、智アリ、仁アリ、勇アル所ノ日本精神、如何ナル外來ノ文化形態ニ對シテモ、之ヲ取容レルニ當ッテハ、サナガラ明鏡止水ノ心境ニ立ッテ之ヲ攝取スル、而シテ之ヲ攝取シテ、之ニ依ッテ影響サレルナラバサレル程、此日本精神ト云フモノハ益々光澤ヲ發揮シテ行クト云フ、サウシタ本質ヲ有ッテ居ル所ノ日

本精神デナケレバナラヌト私ハ考ヘル、然ルニ近頃高唱セラレル所ノ日本精神ノ中ニハ、動モスルト甚シイ排外的ノ思想ガ加味シテ居ルヤウニ思ハレル、又極メテ偏狹ナル獨善主義、而シテ又徒ニ強ガリヲ事トスル思想デアリマシテ、日本精神トハ全ク似テモツカナイ相反スルヤウナ、謂ハ、新シイ危險思想トモ云フベキヤウナ思想ノ横行シテ居ルコトデアアル(拍手)若シ斯様ナ思想ガ微塵デモ混ツテ此仕事ガ運営サレテ行クト云フコトニナリマスレバ、實ニ目的ヲ達成シ得ナイノミナラズ、私ハ明治大帝ノ大御心ニモ反スルコトデアルト思フ(拍手)大帝ハ排外思想ヲ戒メラレテ「ヨキヲトリアシキヲステ、外國ニオトラヌ國トナスヨシモガナ」又日本國ノ大度量ヲ御示シニナツテ「アサミトリ澄ミワタリタル大空ノ廣キヲオノカ心トモカナ」更ニ強カリヲ戒メラレテ「國ノタメアタナス仇ハクタクトモイツクシムヘキ事ナ忘レソ」斯様ニ御詠ニナツテ居ル、私ハ此事業ト云フモノハ何處マデモ精神的ノモノデアルト考ヘル、デアリマスガ、文化ノ内容ヲ成ス學問トカ、藝術トカ、音樂トカ、宗教ト云フモノヲ通ジテ、各國民ノ感情ヲ融和スルト云フコトガ、外交上極メテ必要ナコトデアアル、謂ハ、外交ノ地均シ工作トモ見ルベキ事業デアルト私ハ考ヘル(拍手)此地均シ工作ガ巧ク行ハレナケレバ何モ出來ルモノデハナイ、是ガ巧ク行ハレテ居ル所ハ、外交上ノ交渉ナドハ初メカラ半分成立シテ居ルモノデアルト

言ツテ差支ナイ(拍手)例ヘバ英米二國ノ如キハ常ニ嫉視反目シ、相顔頗シテ行カナケレバナラヌヤウナ立場ニ屢置カレルケレドモ、常ニ事ガ圓滿ニ處理サレテ行ッテ居ルト云フ所以ノモノハ、兩國ハ同文同種ノ關係モアツテ、此地均シ工作ガ圓滿ニ、十分ニ完成サレテ居ルガ爲デアラウト私ハ考ヘル(拍手)彼等ノ間ニハ求メズシテ初カラ一種ノ「アンダースタンディング」、諒解ガアル、斯ウ云フ風デナケレバ外交ノ交渉ト云フモノハ圓滑ニ行ハレルモノデハナイト考ヘル殊ニ我國ト歐米諸國トノ間ハ、中村君モ樓々述ベラレマシタガ、其東西ノ文化ノ相違ハ餘リニ激シイ、ダカラ列國ハ我國ヲ觀察スル時ニ其尺度ト視角ヲ屢誤ル、ソレガ紛爭ノ基トナッテ來テ居ル、彼ノ英國ノ「キップリング」ガ東ハ東、西ハ西、兩者ハ決シテ合フモノデナイト、數十年前ニ喝破サレマシタケレドモ、併シ是モ今日ノ我が日本ニ於ケル現状ヲ見マシタナラバドウデアアルカ、此東西兩文化ノ非常ナ相違ガ、我が日本ニ於テハ少クモ渾然トシテ相融合シテ居ルト私ハ信ジテ居ル、此光景ヲ見マシタナラバ、「キップリング」ガ彼ノ詩ヲ更メテ書直スコトニ躊躇シナイデアラウト私ハ思フ(拍手)私ハ外務大臣モ恐ラク此壇上カラ屢述ベラレテ居リマスガ、如何ナル困難ナル相手方ニ對シテモ非常ナ眞摯ナ態度デ、而モ忍耐ノ伴フ努力ヲ致シマスナラバ、必ズ報イラレルモノデアアル、例ヘバ最近ノ事件ニ致シマシテモ、彼ノ聯盟ノ「リットン」調

査團ノ報告ト、ソレカラ英國ノ産業調査團ノ「バーンビー」報告トノ間ニハ非常ナ開キヲ見セテ居ル、此兩者ハ性質ニ於テ勿論非常ニ違ヒマスルカラ、較ベルノハ無理カモ知レマセヌケレドモ、少クトモ「バーンビー」報告ニハ、我が日本ニ對スル理解ノ程度ガ非常ニ進メラレテ居ル、是ハ外務省ナドノ非常ナ努力、又國民ノ非常ナ努力ニ依ル結果デアルト思フ、又先年私共外國ヲ廻リマシタ時ニハ、外國到ル處デ、我國ノ貿易ヲ妬ンデ居ッタ、サウシテ之ニ對シテ「ソシヤル・ダンピング」ダト言フ惡聲ヲ放ツテ、非常ニ喧シイモノガアッタノデアリマス、是ガ我國朝野ノ努力、殊ニ大阪方面ノ紡績業者ガ自ラ進ンデ出テ其諒解ニ當タ爲ニ、今日デハ大部分解消シテ居ルト云フヤウナ状態デアアル、併ナガラ是等ノ場合ハ、事ガ既ニ發生シテシマッタ跡始末ニ對スル努力デアアル、最モ望マシイコトハ事ノ起ルニ先ツテ、平素常時國際間ノ理解ノ大道ヲ開拓スルコトデアリマシテ、是ガ私ハ外交平和工作ノ秘訣デアアル、鍵鑰デアルト考ヘルノデアリマス、殊ニ此文化事業ヲヤルコトニ付テハ、軍縮ナドノ問題ト異ツテ、ヤレ不脅威不侵略ト云ツタヤウナ、ソナ窮屈ナ話デハナイ、何ボデモヤツテ宜シイ、大ニ侵略シ、大ニ脅威シテ差支ノナイ問題デアアル、殊ニ先程モ外務大臣自ラ仰セラレタガ、外國ノ日本ニ對スル「イントレスト」ト云フモノハ非常ニ殖エテ來テ居ル、泰西文化ガ或種ノ行詰リニ達シテ居

ル、サウシテ彼等ガ其血路ヲ我が日本——東邦ニ向ケツ、アル、斯様ナ状態デアアル、例ヘバ其一例ト致シマシテ、觀光局ノ調ニ依ツテ見マシテモ、觀光及視察研究ノ目的ヲ以テ來朝スル所ノ外國人ノ數ト云フモノハ、昨年ハ著シイ増加ヲ示シテ居ル、一万人モ殖エテ居ル、而シテ是ハ中々小サナ問題デハナイ、我國國際貸借ノ關係カラ申シマシテモ、是等外人ノ我國ニ落ス金ト云フモノハ六千万圓ニ上ル、外國人ノ我國に在者ノ消費ヲ合セマスルト、一億數千万圓ニ上ルノデアリマスカラ、中々此金ノ點カラ考ヘテモ大キナ問題デアアル、私ハ此場合ニ於テ鐵道大臣ニモ御願致シタイ、私ハ折角是等多數ノ外國人ガ來ルノデアリマスカラ、唯金儲ケ主義ト云フコトダケデナシニ、是等外人ヲ通ジテ、是等ノ人々ヲシテ我國ニ對スル印象ヲ誤ラシメルト云フコトノナイヤウニ、特別ノ御努力ヲ願ヒタイ(拍手)併シ現在ノ觀光局ノ規模ト云フモノハ極メテ小サイ、貧弱デアアル、斯様ナモノデハ十分ナ事ハ出來スト私ハ思フノデアリマスガ、是等ニ對シテ内田鐵道大臣ガ、此場合御抱負ノアル所ヲ御示シ下サイマスナラバ、至極結構ト思フノデアアル

斯様ナ新機運ニ今日ハ向ツテ居ルノデアリマスカラ、此文化事業ニ對スル指導精神ヲ誤ルヤウナコトガアリマスナラバ、實ニソレハ全人類ノ福祉ニ對シテ一大貢獻ヲ爲シ得ル機會ヲ失フノミナラズ、全ク悔ヲ千載ニ貽スモノト謂ハナケレバナラヌト私

ハ思ヒマス、我國ノ奈良朝、平安時代ノ絢爛タル文化ハ、實ニ是ハ何處ヘ出シテモ誇ルニ足ルモノデアルト信ズルケレドモ、私ヲシテ言ハシムルナラバ、我國ガ外國ニ對シテ眞ニ誇リ得ル所ノモノハ何デアルカト云フナラバ、ソレハ寧ロ我國ノ文學藝術ノ粹其ノモノガ、國民ノ日常生活ノ中ニ自然ニ織込マレテ行ッテ居ル所ニ在ルノデ、文學ハ文學ノ爲ノ文學デモ價值ガアルカモ知レヌケレドモ、ソレガ國民ノ日常生活ノ間ニ織込マレテ行ッテ居ル所ニ在ルノデ、私ハ非常ナル意義ヲ見出スノデアル、即チ九千万同胞ガ等シク天日ヲ拜シ、上御一人ヲ國父ト崇メ奉リ、平和ヲ愛好シ、大自然ニ親ミ、一介ノ勞働者ト雖モ、九尺二間ノ長屋ヲ己ガ城廓トシテ、一枝ノ梅ノ花ニモ尙且ツ己ガ春ヲ樂ミ得ルト云フ此境遇、私ハ久シク隣保事業ヲヤリマシテ、外國ノ勞働者トモ生活ヲ共ニシタノデアリマスガ、斯様ニ豪語スルコトハ、或ハ文化事業ヲ行フ精神カラ見テ差控ヘナケレバナラヌカモ知レマセヌケレドモ、私ハ我が日本ハ立派ナ國デアルト云フ此自覺ニ依ッテ、結構ナ國デアルト云フコトヲ、多年外國生活ヲヤッタ者トシテ、有難ク思ハザルヲ得ナイノデアリマス、外國ニハ一介ノ勞働者ニ左様ナ餘裕、左様ナ自然ヲ愛スルト云フヤウナル力ノ出來テ居ラヌト云フコトヲ、皆様ニ御披露願ヒタイト思フノデアル、私共ト雖モ、固ヨリ充實シタル國防ハ無言ノ威力トナッテ、國際間ノ危機ヲ救フコトモ認メル、故ニ我國ハ英米

ニ向ッテ海軍ノ對等比率ヲ要求シテ居ルト云フコトハ、當然ノコトダト思フ、併ナガラ諸君、外國ニ映ズル所ノ姿ガ、唯武力對等ヲ要求スル姿ノミデアッテハナラヌト私ハ思フ、日本ノ姿ハソシナモノデハナイ、平和ヲ愛スルト云フノハ、是ハ日本ノ傳統的精神デアアル、徳川三百年ノアノ治績、外國ニ其匹儔ヲ何處ニ見ルコトガ出來ルカ、又謙讓自ラ持スルノ態度ハ是レ日本民族ノ傳統的精神デアアル、而モ世界ノ文化、人類ノ福祉ヲ増進スル爲ニ、飽迄モ列國ト協力シテ行クノダト云フ此態度ガ、大詔ノ御精神デアアルバカリデナク、本當ニ私ハ日本ノ眞ノ姿デアラネバナラヌト考ヘル、而シテ此姿ヲ其儘ニ外國ニ反映セシムルト云フコトガ、此國際文化事業ノ指導精神デアラネバナラヌト思フノデアリマス、外務大臣ハ如何様ニ御考ニナッテ居リマスカ、又文部大臣モ是ハ最モ重要ナル問題デアリマスカラ、其點ニ對シテ文部大臣ノ御考モ御述ベ下サレバ至極結構ト思ヒマス

ニ付テ御伺致シマスルガ、私ハ此點ニ付テ餘リ追究スルコトハ避ケマス、唯此事業ノ性質カラ見デ、是ハドウシテモ恆久的ノモノデナクテハナラヌト思フ、一時的ニヤル仕事デハナイノデアアル、併シ本案ニ依リマスルト云フト、之ヲ一時他ノ特別會計カラ融通ヲシテ、サウシテヤルノダト言ハレル、私ハソシナヤウナ遣リ方デハドウカト思ヒマスルケレドモ、併シ左様ナ遺算段ヲシテマデモ尙且ツ此仕事ヲ始メラレル外務大臣ノ御苦心ノ程ヲ寧ロ多トスル者デアリマスガ、併シ私ハ唯金ノ高ナドヲ言フノデハナイ、此仕事ノ目的ノ大キイコト、永遠性ノアルコト、サウシタコトカラ考ヘテ見テ、外務省ハ仕事ヲ始メルノニ、サウ云フヤウナ鈍イ、生温イ、心細イ歩ミ方デハ、今日ノ此陰鬱ナル國際情勢ニ向ッテ、此現前ノ國際情勢ト云フモノヲ打開シテ行クノダト云フ、其氣魄ト云フモノヲ窺ハレナイデハアリマセヌカ、此氣魄ガアッテ此國際情勢ト云フモノヲ打開シテ行カナケレバナラヌ、ソレガ出來ナイ以上ハ、我國ノ豫算ノ均衡モ得ラレナイ、農村ノ振興モ出來ナイ、赤字克服モ出來ナイデハアリマセヌカ、而モ是等ノ重壓ト云フモノハ、一ニ私ハ外相ノ平和工作ノ上ニ繫ッテ來テ居ルト思フノデアリマス、文化事業ハ道樂ナドデヤレル仕事デハナイ、道樂ニヤルノデハナイ、世界ヲ明ルクスル爲ニヤル仕事デアアル、ダカラコソ國際情勢ヲ打開スル下仕事トシテ、此仕事ハ重要性ヲ帯ビテ來ル、ダカラシテ斯ウ云フ仕事ニ對シテ、外務大臣ハ少シモ御遠慮ナサルコトハナイ、堂々ト大キナ豫算ヲ要求セラレテハドウデアリマスカト云フコトヲ御伺シタイノデアリマス、先程モ外國ハドンナニ澤山金ヲ使ッテ居ルカト云フコトヲ中村君ガ申述ベラレマシタ、私ハ之ヲ繰返シテ申上ゲマセヌガ、今日ノ日本ノ狀態ト云フモノハ、外國トハ此點ニ對シテ、此文化事業ト云フヤウナ問題ニ對シテ、

同ジヤウニ多額ノ金、外國以上ニ金ヲ使ヒ得ナイト云フコトハ自慢ニナリマセヌ、文化事業ニ關スル限り、海軍ノ比率ト同ジヤウニ「バリテイ」デオ出デナサイト云フコトガ、日本デハ言ヘナイデハナイカ、最近ノ我國ノ兩三年ノ豫算ト云フモノヲ一瞥シマスルト、私ハ是ハ「メガホン」豫算デアルト謂ヒタイ、非常時々々々ト云ッテ大聲叱呼スルト「メガホン」ノ形ソックリニ軍部豫算ダケハ膨脹スル、スルト其反對ニ農村振興トカ、或ハ平和工作ノ費用ト云フモノハズツト縮小シテシマフ、全ク「メガホン」豫算デアルト謂ヒタイ、斯ウ云フ豫算ニ對スル、偏輕偏重ト云フモノヲ總理大臣一人ニ浴ビセテ宜イカ、陸海軍大臣ハ、此總豫算ノ大半ト云フモノヲ奪フコトニ依ッテ、陸海軍ノ壯丁ノ八割二分マデモ送り出シテ居ルト謂ハレテ居ル此農村ニ對スル費用マデ攪ッテ行ツタト謂ハレタノデハ、陸海軍大臣、外陸海軍ノ幹部ハ、恐クハ立ッ瀕ハアルマイ、ケレドモ諸君、見方ニ依ッテハ是ハ非常時ヲ認識シテ、職務ニ忠實デアッタトモ言ヘル、之ニ反シテ外務大臣、農林大臣、其他ノ各省大臣ハ、所管ノ國務ニ對シテ熱意ヲ缺イタガ爲ニ、自分ノ新規要求ノ額ヲ五分ノ一カラ、甚シキハ十分ノ一近クマデ減サレテ、ソレデ尙ホ晏如トシテ居ルト云フコトニナッテハ、何タル臍甲斐ナイコトデアアルカト言ハナケレバナラヌト私ハ思フ（拍手）若シ是等ノ大臣ガ、國防費ノ手前已ムヲ得ナイ、是デ我慢シテ居ルノダト云フナラバ、初メニ於テ五

分ノ一、十分ノ一デ辛抱ノ出來ル、其五倍モ十倍モ要求スルト云フ省內豫算ノ建方ト云フモノハ、洵ニ以テ不眞面目千萬デアルト謂ハナケレバナラヌト思フ、國民ハ斯ウ云フコトヲ眞劍ニ考ヘルナラバ是デ諒承スルモノデハナイ、廣田外務大臣ハ所謂焦土外交ノ後ヲ承ケテ、今日マデ國民ノ間ニ相當ノ人氣ヲ博シテ來ラレタト私ハ思フ、ケレドモ其歩ミノ跡ヲ追ッテ見マスルト、ア

ノ北鐵買收ノ如キハ正ニ大成功デアリマセウガ、其外ニハ是ト云ッテ取立テ、私ハ廣田外交ヲ禮讃シナケレバナラヌヤウナ素因ヲ見出スコトハ出來ナイ、ケレドモ尙ホ國民ハ廣田外交ニ望ミ繋イデ居ル、多大ノ期待ヲ持ッテ居ルデアリマス、之ヲ廣田外務大臣ニ考ヘテ賞ヒタイ、此國際文化事業ノヤウナ建設的ナ事業ニ對シテハ、國民ハ金ヲ吝ムモノデヤアリマセヌ、斷ジテ私ハ金ヲ吝ムモノデハアリマセヌ、何故モト大膽ニ斯ウ云フ國際情勢打開ノ爲ニ下仕事ヲスル仕事ニ對シテ、外務大臣ハモット金ヲ要求サレナイノデアアルカ

最後ニ私ハ事業ノ運営ノ方法ニ付テ御伺ヒ致シマスガ、此事業ノ活動範圍ハ極メテ多方面ニ互ル、ダカラシテ廣ク民間ノ財力及知能ヲ動員スル必要ヲ認メルノデアリマス、外務省ガ自ラ各國ノ事情ニソレム、對應シテ、適切ナル此文化事業ヲ創設シテ行クコトハ洵ニ結構デアリマスガ、一定期間之ヲ行ッテ、非常ニ效果的ノモノデアルト云フコトヲ發見シマス共ニ、之ヲ漸次民間

ニ移シテ行クナラバドウカ、サウ云フ方法ヲ御執リニナル御考ハナイカ、少クトモ之ヲ半官半民ノ仕事ニスルト云フ御考ハアリマセヌカ、又現ニヤリツ、アル所ノ對支文化事業ト云フヤウナモノモ、斯ウ云フ半官半民ノ仕事、或ハ全然之ヲ民間ニ移シテシマフト云フヤウナ御考ハアリマセヌカ

更ニ現在外務省ガ助成金トカ補助金ヲヤッテ居ル所ノ民間ノ此種ノ事業ヲシテ、今日ノ情勢ニ鑑ミテ、全面的ニ之ヲ督勵スル必要ガアル、サウシテ大ニ活動ヲ促スノ必要ガアリマスカラ、是等ニ對スル所ノ補助金ト云フモノハ、益ニ是カラ増額シテ行カナケレバナラヌト思ヒマスガ、ソレト共ニ適當ナル所ノ指導ト鞭撻ト云フモノヲ與ヘナケレバナラヌ、殊ニ常ニ刺戟ヲ與ヘテ行カナケレバ、斯ウシタ補助金ヲ以テヤッテ居ル所ノ仕事ト云フモノハ、往々ニシテ一定ノ「ロット」ニ入ッテシマッテ生氣ヲ喪フ、左様ニ私ハ考ヘルガ、外務大臣ハ之ヲ如何様ニ御考ニナルカ、此點ニ對シテ重複シテ既ニ御答ヘ下サツタコトハ、重ネテノ御答ハ必要ガアリマセヌ、私ノ質問ニ對シテ必要ト認メラル、點ダケヲ御答ヲ願ヒタイト思フノデアリマス(拍手)

(國務大臣廣田弘毅君登壇)

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今松田君ハ、

日本ノ方面カラ見タ文化事業ノ必要ナル點ヲ主トシテ御述ニナリマシテ、前ノ中村君ノ外部カラ見タ御意見ト相俟ッテ、私ハ非常ナ參考トスル點ヲ得タノデアリマス、日本

ノ文化事業ト云フモノヲ非常ニ廣義ニ解シマスレバ、是ハ詰リ日本ノ眞ノ相ヲ世界ニ顯ハスト云フコトデアリマスノデ、是ハ極ク狹義ノ意味ノ、所謂文學美術文藝、其ノ部分的ノモノダケノ意味トハ、非常ナ違ガアルト思フデアリマス、隨ヒマシテ此ノ廣イ意味ノ文化事業ト云フモノガ、私共ノ最モ主眼トスル所デアリマスノデ、其中ニハ只今御述ベニナリマシタヤウナ日本ノ眞ノ相ヲ顯ハス爲ニハ、軍備ノ如キモノモ其ノ一部分ニ過ギナイ、經濟ノ如キモノモ其ノ一部分ニ過ギナイ、文化其他總テソレハ其全體ノ一部分ニ過ギナイ仕事デアアルノデアリマス、隨ヒマシテ、然レバ日本ノ眞ノ相ト云フモノハ何處ニ在ルノカト云フコトニナリマス、私ノ如キ淺才ノ者ガ之ヲ定義スルト云フコトハ勿論出來ナイコトデアリマス、併ナガラ何レノ日本人ニ於キマシテモ、何レモ日本ノ相ヲ自然ノ内ニ、私ハ了解シテ居ルト思フデアリマス、隨ヒマシテソレ等ノ點ハ單ニ役人仕事デナク、此日本ノ眞ノ相ニ依ッテ了解ヲ有ッテ居ル各方面ノ人々ノ意見ヲ集メマシテ、ソレ等ノ意見ニ依ッテ眞ノ日本ノ相トシテ世界ニ示スベキモノヲ示シタイト思フデアリマス、尙ホ從來日本ニ於キマシテハ、日本ノ此眞ノ相ヲ益々磨ク爲ニ、外來ノ思想ヲ色々採入レマシテ、今日ノ相ヲ顯ハシテ來タト思フデアリマスガ、其爲ニ最近日本開國以來泰西文物モ隨分採入レタノデアリマスガ、再ビ之ヲ檢討スルヤウナ感ジヲ日本人ガ持ツヤウニナッ

テ參リマシテ、之ニ依ッテ日本ノ眞ノ相ガ一層明ニ世界ニ現ハレルヤウニナッテ參リマシタ、斯ウナッテ參リマシテ、始メテ東洋文化、泰西文化ガ、相俟チマシテ、人類ノ眞ノ文化ヲ渾成スルモノデアルト私ハ信ズルノデアリマス、斯ウ云フ大キナ事業ニ從事致シマスノニ、今マデ外務省デ計畫致シマシタ事業ノ規模ノ小ニシテ、且ツ之ニ應ズルダケノ準備ガ徹底シテ居ナイト云フコトハ、私自身非常ニ汗顔ノ至ニ堪ヘナイノデアリマス、併ナガラ之ニ付キマシテハ、物ハ適當ノ順序ヲ履マナケレバナラヌト思ヒマス、政府ト致シマシテハ、先ヅ此程度カラ著手致シマシテ、此上ハ更ニ民間ノ各方面ノ財的助力モ十分ニ得マシテ、此事業ノ歩ヲ進メテ參リタイト思ッテ居ルノデアリマス、尙ホ此運営方法ニ付キマシテハ、是ハ勿論到底政府ノ仕事デ行ケルモノデハナイト思フノデアリマス、對支文化事業ノ如キモノモ過去數年ノ經驗ニ依リマシテ、大體其計畫ガ實行サレツ、アルノデアリマスガ、其實行サレマシタ經過ノ跡ヲ見マス、病院ノ設備ト云ヒ、其他色々ノ研究所ト申シマシテモ、是ハ殆ド事實的ニハ役人ノ手カラ離レテ民間ノ手ニ移ッテ居ルト申シテモ差支ナイノデアリマス、斯ウ云フ風ニシテ參リマシタナラバ、此文化事業ノ如キモノモ、此際著手致シマシタ仕事ガ追々發展致シテ參リマスニ連レマシテ、ソレム、其向々ノ仕事ニ分科セラレテ參ルコトデアラウト思フノデアリマス、又現在此文化事業ノ關係

ト致シマシテ、國際文化協會、或ハ日本國

際協會ト云フヤウナ協會モアリマシテ、是等ノ方面ニ於テハ殆ド畢生ノ事業トシテ、其仕事ニ從事シヨウト云フ多數ノ人モアリマスノデ、斯ウ云フ人々ノ助力ヲ得、且ツ財界各方面ノ財の助力モ得マシテ、此目的ノ達成ニ努力致シタイト思フ次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣松田源治君登壇〕

○國務大臣(松田源治君) 松田君ノ日本古來ノ文化ニ付テ述ベラレタルコトハ、私ハ全然同感デアリノデアリマス、御承知ノ如ク日本ノ國ハ古イ國デアリマシテ、紀元二千五百九十五年ニナルノデアリマシテ、古來ヨリ日本ハ文明ヲ有ッテ居タノデアアル、其文學ニ於テモ、音樂ニ於テモ、彫刻ニ於テモ、繪畫ニ於テモ、精神的ノ文明ハ決シテ世界ニ負ケテ居ラスト私ハ思フ、而シテ西洋ノ精神文明ガ行詰ッテ東洋ニ其活路ヲ求メテ居ルト云フコトニ付テハ、全然私ハ同感デアリノデアリマス、申シ換ヘマスレバ、西洋ノ文化ノ長ヲ採リ東洋ノ文化ヲ發揮シテ、渾然一致シタ新ナル文化ヲ世界ニ宣傳スル國民ハ、日本國民ノ天職デアルト考ヘテ居ルノデアアル(拍手)斯ウ云フ意味ニ於テ私ハ文部ノ關係ニ於テモ努力致シテ居ルノデアリマス、又私ノ唱ヘタル日本精神ハ固陋頑固ノモノデハナイ、西洋ノ長所ハ採ルガ弊害ハ採ルベカラズト云フコトヲ言ッタノデアッテ、固陋頑固デナイト云フコトハ、山道君ノ御質問ニ答ヘタ通りデアリ

マス

〔國務大臣内田信也君登壇〕

○國務大臣(内田信也君) 松田君ニ御答致シマス、松田君仰セノ通り鐵道省觀光局ノ目的ハ、來遊外人ヲ我國ニ誘致致シマシテ、貿易外ノ國際收支勘定ニ於テモ益スル所アリマスト共ニ、來遊外人ニ對シテ直接我ガ日本ノ風土人情等ニ親シマセマシテ、而シテ五ニ理解ヲ得ルト云フコトガ目的デアリマスガ、收支勘定ニ於キマシテハ、松田君仰セノ通り昭和九年度ニ於キマシテハ、前年度ニ比シテ約三割五分程増シマシテ、大體三萬五千人、金額六千萬圓程消費サレタコト、存ズルノデアリマス、固ヨリ此收支勘定ヲ増大スルコトハ、今日世界ノ貿易界ガ動モスレバ「バスター・システム」ニ陷ラントスル此際ニ於キマシテハ、貿易上ノ缺陷ヲ來遊外人ニ依ッテ補フコトヲ云フコトガ重大ナル目的デアリマス、故ニ觀光局ニ於キマシテハ唯目前ノ金錢ノ利益ト云フコトノミニ惑ハサレマセズ、是等來遊外人ニ對シテ惡感情ヲ懷カセテ歸セバ、却テ御客ヲシテ感情ヲ害スルト云フコトニナッテ、目的ニ反スルコトニナリマスノデ、特ニ此點ニ於テハ注意致シテ居リマスガ、先刻モ中村君ノ御質問ニ御答シタ通り、御役所仕事ハ動モスレバ自分ダケ己惚レテ居ッテ、相手ハ却テ圖ラザル不快ノ念ヲ以テ歸ル者モ、多數ノ中ニハ少シハ居リハセスカト云フコトヲ私モ心配致シマシテ、今後ハ皆様ノ民間御經驗者ノ知識ヲ拜借シテ、是ヨリ完全ナル事

業ヲ遂行致シタイト存ズルノデアリマス、而シテ觀光局ノ費用ハ鐵道省特別會計負擔トシテ宣傳費二十五萬圓、民間寄附五萬圓、計三十萬圓、此外事務費トシテ鐵道省ハ十二萬圓ヲ負擔致シテ居リマスガ、是デハ恐ラク今後ノ事業ノ進展ニハ、不足デアラウト感ズルノデアリマス、仍テ私昭和十年度ニ更ニ經驗ヲ積ミマシテ、昭和十一年度ニ於キマシテハ一般會計ニ於テ、負擔シテ費フ手配ニナッテ居リマスガ、併シ一般會計ニ於テ資金ノ増額ヲ承知シテ吳レナイ場合ニ於キマシテハ、鐵道省特別會計ニ於テ更ニ資金ヲ増シテモ、之ニ備ヘル積リデゴザイマス

元來觀光局ガ初メテ出來上ッタ當時ハ私存ジマセマスガ、鐵道省ガ二十五萬圓デ一般會計ガ五十萬圓、民間ガ二十五萬圓デ合計百萬圓ノ宣傳費ヲ使フ積リニナッテ居ッタサウデアリマスガ、今日ノ財政デハ中々其方ニ手ガ廻リ兼ねマスノデ、只今申上ゲタ通り昭和十一年度ニ於テ、一般會計ニ於テ負擔シ切レナイヤウナ場合ニ於テハ、鐵道省特別會計ニ於テ此上ノ奮發ヲシテ、來遊外人ノ誘致及日本ノ貿易外收支勘定ノ増大、竝ニ各國ノ理解ヲ得ルト云フ點ニ努力致シタイト考ヘテ居リマス(拍手)

○松田竹千代君 簡單デアリマスカラ此處カラ御許シ願ヒマス——私ノ質問ニ對スル各大臣ノ御答辯ハ能ク諒承致シマシタ、私ノ質問ハ是デ終リマス

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者栗原彦三郎君

郎君

〔栗原彦三郎君登壇〕

○栗原彦三郎君 私ハ本案ニ關シテ主トシテ外務大臣ニ御伺シタイノデアリマスガ、外務大臣ハ豫算總會ノ方ニ御出デニナラナケレバナラナイト云フコトデアリマスカラ、極ク簡單ニ御尋致シマス、中村君竝ニ松田君ガ基礎の御尋ヲ十分ニシテ吳レマシタカラ、私ハ進ンデ、廣田外相ハ本案ニ依ッテ日本ノ文化ノ中デ、先ヅ如何ナルモノヲ第一トシテ御紹介ナサラントスルノデアアルカト云フ御尋ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、今回外務省ガ國際文化事業部ト云フモノヲ、御計畫ナサレテ居ルノデアルト云フコトヲ仄聞致シマスルト、其御紹介ニナラウトスルモノハ我國ノ文化ノ本體デナクシテ、我國ノ文化ガ産ンダ副産物デアリマス所ノ美術品ノ如キモノヲ、先ヅ第一ニスルノダト云フコトデアリマス、美術ノ如キモノハ日本文明ノ一面デアリマスルガ故ニ、之ヲ紹介スルコトニ努力致スコトハ、必シモ惡クハアリマセズ、私モ贊成ヲ致ス者デアリマスルガ、斯様ナ日本文化ノ枝葉末節ヨリモ、本當ニ日本ノ文明ノ本體、日本精神ト云フモノヲ世界ニ御紹介ニナルコトガ、一番大切デハナイカト私ハ存ズルノデアリマス、即チ日本文明ノ本體ハ日本精神デアリ、日本國民ガ有スル皇道精神デアリマス、之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ之ヲ中外ニ施シテ悖ラザル人類ノ無上最聖道デアルト私ハ存ズルノデアリマス、現ニ世界ノ學

界、思想界ニ於キマシテモ、近來日本精神ノ研究ト云フコトガ、一大題目トシテ提唱セラレテ居ルノデアリマスガ、歐米人ニ我ガ日本精神ヲ理解セシムルト云フコトガ、先ヅ第一番ニ此事業ノ上ニ於テ必要ノコトデアルト、私ハ存ズルノデアリマスガ、外務大臣ハ之ニ付テ如何ナル御考、如何ナル御計畫ヲ有ッテ居ルカラ御伺致シタイノデアリマス

更ニ只今外務大臣ノ御答辯、又兩君ノ御質問ノ上ニモ現ハレタノデアリマスルガ、日本ノ文明ノ力、日本國民ノ精神ガ彼ノ佛教ヲ咀嚼シ、消化シテ作り上ゲタ日本佛教モ亦日本文明ノ華ト申スベキモノデアルト存ジマス、更ニ支那ノ儒道ヲ採入レ、之ヲ日本國民ノ文明ト日本國民ノ特異性トヲ以テ精練シテ作り上ゲマシタ所ノ、日本ノ儒道ト云フモノモ、是亦立派ナ日本文化ノ華デアルト私ハ存ズルノデアリマス、現ニ英國、米國、獨逸、佛蘭西等ノ諸國ノ學界ニ於テハ、此日本ノ佛教、日本ノ儒道ト云フモノニ付テ、熱心ナル研究ガ開始セラレテ居ルノデアリマスガ、廣田外務大臣ハ此絶好ノ機會ヲ利用致シマシテ、日本文明ノ華タル日本ノ佛教、日本ノ儒道ヲ歐米ニ紹介シ、歐米人ヲシテ眞ノ日本ノ文明ト云フモノガ、如何ナルモノデアルカト云フコトヲ理解セシムル御考ハナイカ、御伺ヲ致シタイノデアリマス、併シ斯ウ申セバソレハ學者ヤ宗教家ノヤルコトダト云フヤウナ、御議論モアリマセウケレドモ、宗教家、學者

ノヤル以外ニ外交工作トシテ、斯様な精神文明ヲ歐米人ヲシテ能ク理解セシムルト云フコトガ、外交上ノ位大切ナモノデアアルカト云フコトハ、廣田外務大臣ノ夙ニ御承知ノコトデアルト存ジマスルガ故ニ、此御尋ヲ申上ゲルノデアリマス

私ハ斯ウ申シマスルト日本人ノ文明ガ生シタ日本ノ藝術ト云フモノヲ、自ラ蔑ミスルカノ如クニ御聽ニナルカモ知レマセヌガ、私ハ左様ナ精神ヲ有ッテ居リマセヌ、日本精神ヲ紹介致シマスト共ニ、日本ノ文明ガ生シタ日本ノ文化、日本ノ藝術、日本ノ文藝ト云フモノヲ歐羅巴ニ紹介シテ、歐羅巴人ヲシテ十分ニ之ヲ理解セシムルコトモ亦、大切ナコトデアルト存ズルノデアリマスガ、私ハ然ラバ或ハ繪畫、或ハ陶器、或ハ彫刻、斯ウ云ツク美術品ヲ先ヅ第一ニ先ニスベキカ、日本ノ文藝ヲ歐羅巴ニ紹介スルコトヲ先ニスベキカト云フコトニ付テ、又御伺ヲシテ見タイト思フノデアリマス、私ハ今真先キニ歐米ニ紹介スベキモノハ是等ノ繪畫、彫刻其他ノ美術品ニアラズシテ、日本ノ文藝デアルト思フ者デアリマス、是ハ私ノ獨斷デハナイノデアリマシテ、明治以來今日迄ノ實際ニ徴シテ、斯ク斷定スルノガ當然デアルト存ズルノデアリマス、我國ノ美術ガ明治ノ初年ニ——日本ノ國民ノ多數ガ國粹美術ト云フモノガ、如何ニ大切デアアルカト云フコトヲ、能ク理解シナカッタ時ニ、二東三文デ本當ノ日本ノ代表的國粹美術ガ、ドシ——歐羅巴ニ出テシマッタノ

デアリマス、例ヘバ倫敦ノ英國帝室博物館ニアリマスル繪畫ニ於キマシテハ、古イノハ奈良朝、平安朝時代トモ見ルベキ所ノ古イ佛畫等モアリ、雪舟、元信等ノ大傑作、或ハ探幽、宗達、光琳、應舉ノ傑作ノ最大傑作、或ハ雲谷派ノモノ、或ハ住吉派ノモノ、中ニハ浮世繪ノモノモアリ、又吃又トカ歌麿トカ、師信トカ云フヤウナ各種ノモノガ、苟モ日本ノ繪畫中本當ニ其代表的傑作ダト思フヤウナモノハ、悉ク彼處ニ行ッテ居ルノデアリマス、又單ニ英國バカリデハアリマセヌ、米國ノ各富豪ガ有シテ居ル所ノ美術館、或ハ佛蘭西或ハ獨逸等ニモ、本當ニ日本ノ代表的美術品ト云フモノハ、過半日本カラ出テシマツテ、日本ニハ僅シカ殘ッテ居ラヌト云ツテモ差支ナイ位ニ、出テシマツテ居ルノデアリマス、然ルニ是等ノ美術ガ歐米人ニ如何ナル感化ヲ與ヘタカ、斯ク申シマス固ヨリ惡イ感化ハ與ヘテ居リマセヌガ、歐米人ヲシテ、ソレ程ニ日本ノ美術ニ敬服セシメ、此美術ヲ通シテ日本國民ヲ敬愛スルト云ツタ風ノコトニ立至ッテ居ラナイノデアリマス

然ラバ文藝ハドウデアアルカ、斯様ニ申シマスルト、日本ノ文藝デ現ニ歐羅巴ニ紹介セラレテ居リマスルモノハ、本當ノ一小部分デアリマス、本當ノ一小部分——或ハ萬葉集ノ一部分デアルトカ、或ハ物語物ノ一部分デアルトカ、或ハ謡曲物デアルトカ、江戸文學ノ一部分デアルトカ云フ僅カノモノガ、紹介サレテ居ルニ過ギナイ、本當ニ九

牛ノ一毛ニ過ギナイノデアリマスルガ、歐米ノ識者ハ之ヲ見テ、日本ノ文學ト云フモノニ、心カラ敬服シ、心カラ尊敬シテ居ルノデアリマス、是ガ日本ノ文藝ト云フモノガ、歐米人ヲシテ日本國民ヲ愛スルト云フヤウナ働ヲドラガ多ク持ッテ居ルカト言ヘバ、此文藝ノ方ガ非常ニ多クノ力ヲ持ッテ居ルト云フ明ナ證據デアリマス、日本ノ學者ト云フモノハ、英文學ヲ學ンダ人ハ、何ガ何ンデモ英文學デナケレバナラス、佛文學ヲ學ンダ人ハ佛文學ガ一番デアルト言ヒ、獨逸文學ヲ學ンダ人ハ獨逸ノ文學ニ心醉シテ、日本ノ文藝ナドハ駄目ダト言ッテ居ル人ガアリマスガ、是ハ大變ナ間違デアリマス、歐羅巴ノ人ノ誇トスル例ヘバ「ダンテ」デアルトカ「シェークスピア」デアルトカ「ユーゴー」デアルトカ「ロジックフエロー」デアルトカ「バイロン」デアルトカ「スコット」デアルトカ「シェリー」デアルトカ「ウオーズワース」デアルトカ云ツタヤウナ、歐羅巴人ガ誇リト致シテ居リマス所ノ文藝ト、日本ガ持ッテ居リマス所ノ文藝トヲ對照致シマシテ、ドチラガ非常ノ力ヲ持ッテ居ルカ、ドチラガ立派ナモノデアアルカト云フコトハ、モウ歐羅巴ノ學者ガ立派ニ研究ヲ致シマシテ、定論トナツテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デアリマスカラ、先ヅ美術ト云フヤウナモノヲ真先ニ御紹介ナサリマスヨリモ、日本ノ文藝ト云フモノヲ御紹介ナサル方ガ、非常ニ效果的デアルト存ズルノデアリマスルガ、外務大臣ハ如何ニ御考ニ

ナッテ居ルカ、御伺ヲ申シタイノデアリマス、私ハ丁度今カラ二十數年前ニ、倫敦「タイムス」社ガ横濱ノ山下町七十番館ニ支局ヲ置イテ、アノ「エンサイクロペディア」ヲ賣出シマシタ時ニ、倫敦「タイムス」社ノ東洋支配人ト云フ者ヲ訪ネテ、アナタハ日本ノ群書類從ヲ英譯シテ出版シテ呉レナイカト云フコトヲ、栃木縣ノ山奥カラ出テ行ッテ相談シタコトガアッタノデアリマスガ、同氏ハソレハ非常ニ良イ事デアル、本當ニ日本ノ真相ト云フモノ、日本ノ文藝ト云フモノ、日本ノ文化ノ力ト云フモノヲ歐羅巴ニ紹介スルニハ、斯様ナモノヲヤルニ限ルノデアアル、併シ是ニハ相當ノ援助者ガナケレバ出来ナイコトデアルト云フ話ガアッタガ爲ニ、私ハソナナ大キナ援助ヲスルコトガ出来マセヌデアリマシタガ故ニ、其儘ニシテシマッタノデアリマスルガ、物ハ相談デアリマシタガ、廣田外務大臣ハ折角此國際文化ノ御計畫ヲナサツタノデアリマスルカラ、先ヅ第一ニ年々二十萬カ三十萬ノ金ヲ投ジテ、二十年カ三十年ノ繼續事業ト致シマシテ、此群書類從ノ英譯ヲ出版スルコト云フヤウナ御考ハナイカ、本當ニ日本國民ノ文明ト云フモノ、日本國民ノ文化ト云フモノガ、歐羅巴ノ如何ナルモノヨリモ優レテ居ルトスルナラバ、之ヲ彼等ニ紹介スルコト云フコトガ、此國際文化事業ノ目的ヲ達スル上ニ於テ、最モ大切ナコトデアルト私ハ信ズルノデアリマス（拍手）此群書類從ヲ本當ニ英譯シテ、之ヲ出版スルコトガ出来マスルナラ

バ、其效果ハ本當ニ、大キナ戰艦艦ノ一艘ヤ二艘ヲ持ヘテ世界ヲ乗り廻スヨリモ、本當ニ世界人ヲシテ日本ニ敬服シ、日本ニ信服セシムルコトガ出来ルノデアリマシテ、將來將ニ起ルデハナイカト杞憂セラレテ居リマスル所ノ人種戰爭ノ如キモ、此事業一ツニ依ッテ、將來絕對ニ起サナイヤウニスルコトモ出来ルト私ハ存ズルノデアリマス（拍手）斯様ナ次第デアリマスルガ故ニ、外務大臣ハ斯様ナコトヲ試ミラレル御考ガナイカドウカ、斯ウ云フコトヲ御尋申上見タイノデアリマス、尙ホ他ニモ御尋申上ガタイ點、更ニ又愚見ヲ申上ガタイ點モ澤山アリマスガ、時間ガアリマセヌカラ、唯後一點ダケ御尋申致シマシテ、質疑ヲ止メタイト思ヒマス

外務大臣ハ更ニ御計畫ニナッテ居リマスル此日本ノ文藝美術、斯ウ云ツタヤウナ物ヲ御紹介ニナリマスル時ニ於テ、如何ナル物ヲ御選擇ニナルカト云フコトヲ、最後ニ御尋申上ガテ置キタイノデアリマス、日本ノ美術ト申セバ、今迄ハ色彩濃厚ノゴテ、シタ、或ハ歌麿ノヤウナ、或ハ吃又ノヤウナ、或ハ光琳ノヤウナ、サウ云ツタ物、又陶器ニ於テハ柿右衛門ノ物デアルトカ、或ハ古伊萬里ノ錦欄手ノ物デアルトカ、九谷ノ錦欄手ノヤウナ物デアルトカ、兎ニ角輸出物ラシイ物ト云フヤウナ物ヲ、歐米ニ多ク紹介シタノデアリマスルガ、今ハ歐羅巴人ノ觀賞心ト云フモノガ非常ニ變化ヲ來シテ居ル、サウ云フゴテ、シタ物ハ、今ヤ彼等ニ飽カレテ居ルノデアリマシテ、本當ニ日本ノ古畫ノヤウナ、或ハ南畫趣味ヲ盛タヤウナ、兎ニ角趣味ノ物ガ、本當ニ歐羅巴人ニ好マレテ居ルノデアリマス、喜バレテ居ルノデアリマス、歡迎サレテ居ルノデアリマス、此故ニ美術品ヲ御紹介ナサルト致シマシテモ、既ニ彼等ガ飽イテ居ル、厭ヤニナッテ居ルト云フ物ヲ押付ケテ紹介スルト云フコトデナクシテ、彼等ガ歡迎シテ居ル、好ンデ居ル所ノ、所謂本當ニ日本精神ガ一ツノ器、一ツノ繪畫ニモ十分ニ含まレテ居ル所ノ物ヲ御紹介ニナルコトガ大切デハナイカト存ズルノデアリマスガ、外務大臣ハ如何ニ御考ニナッテ居ルカ、御聽キ申シタイノデアリマス、此外尙ホ小サナ點ニ付テ如何ナル方面ノ美術ガ、ドノ國ニ紹介スベキ物デアルカ、例ヘバ英吉利ハドウ云フ物ヲ好ミ、佛蘭西ハドウ云フ物ヲ好ミ、米國人ノ只今ノ心理狀態ガ、日本ノ如何ナル美術ヲ好ムカト云フヤウナコトニ付テモ、實ハ一々申上ガテ御意見モ伺ッテ見タイノデアリマスケレドモ、時間ガアリマセヌカラ、折角用意ハ致シテ來マシタガ、是ハ委員會ニ讓ッテ御答辯ヲ御願申上ゲルコトニ致シマシテ、只今申上ガマシタ要點ニ付テ御答辯ヲ御願申シテ置キマス

（國務大臣廣田弘毅君登壇）
○國務大臣（廣田弘毅君） 只今栗原君ノ御質問ニ御答シタイト思ヒマスガ、實ハ甚ダ困難ナ點モアルト思フノデアリマス、無論日本文化ノ紹介ヲスルコト云フコトニ付キマシテハ、根本ニ於キマシテ日本精神ニ基ク各般ノコトヲ、紹介スルコトガ主眼デアルト思フノデアリマス、此方法ト致シマシテハ、具體的ニハ歐米ノ各主要ナル大學ニ、日本文化ノ講座ヲ設ケルヤウニ致シマシテ、之ニ適當ナル日本ノ教師ヲ送ル、或ハ日本ノ文化ヲ實際ニ了解セシムルノニハ、日本語ノ研究ト云フコトガ必要ニナリマスノデ、日本語講座ト云フヤウナモノモ開イテ、サウシテ單ニ眼デ見ル美術品、或ハ限デ讀ム文學書以外ノ事柄モ、サウ云フ講座ニ依ッテ紹介致シタイト思ッテ居ル次第デアリマス、其際ニ無論日本ノ今日ノ文化ヲ完成スルニ與ッテ力アリマシタ佛教、或ハ儒道ノ如キモノ、精神ヲ説明スルコトモ、當然必要ニナッテ來ルコトデアルト思フノデアリマス、其他文藝ニ關スル出版ノ如キモノモ、無論考ヘナケレバナラスコト、思フノデアリマシテ、最近日本ニ於テ九百年前ノ女性ニ依ッテ著作サレマシタ源氏物語ガ、非常ニ英吉利ノ英文大家ニ依ッテ七八冊ノ部數ニ譯サレマシテ、是ガ今日歐米諸國ニ於テ非常ニ愛讀セラレテ居ルト云フ事實モアリマスノデ、斯ウ云フ眞ノ日本精神ヲ現ハシテ居ルヤウナ文藝書ノ外國翻譯ト云フコトモ、當然爲スベキ事デアルト私ハ思フノデアリマス、併ナガラ此美術品其他是等ノ文藝品ヲ、何レヲ先ニスベキカト云フヤウナコトハ、一寸私ガ技ニ思付キト申上ゲルコトモ甚ダ如何ト思ヒマスノデ、是ハ御意見ノ次第ハ關係ノ人ニ十分説明ヲスルコトニ致シタ

イト思ヒマス、尙ホ其上更ニ委員會ニ於キマシテ、各國ノ日本ニ對スル趣味等ニ付テ、詳細ナル御説明ヲ承テ置イテ、參考ニ供シタイト思フ次第デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ

○栗原彦三郎君 議長

○議長(濱田國松君) 何カ御尋ガアリマシタカ

○栗原彦三郎君 御尋ハアリマセヌ、委員會ニ譲リマス

○議長(濱田國松君) 再度宣告ヲ致シマス、質疑ハ是ニテ終了致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス

○青木三郎君 本案ハ政府提出、昭和十年度一般會計彙出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三及第四ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第三、造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新

營費ニ關スル法律案、日程第四、東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——大藏政務次官矢吹省三君

第三 造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第四 東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案

造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案ニ充用スル爲造幣局資金ノ内二百十三萬五千五百圓ヲ限リ昭和十年度乃至昭和十二年度ニ互リ一般會計ニ繰入ルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰入ルベキ金額ノ毎年度歲出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案

昭和九年度末現在ノ東京帝國大學資金ニシテ東京帝國大學農學部ノ實科ノ用ニ供スルモノ、昭和九年度東京帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ同帝國大學農學部ノ實科ニ關シ生ジタルモノ及同年度北海道帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ同帝國大學附屬水產專門部ニ關シ生ジタルモノハ之ヲ學校及圖書館資金ニ編入スベシ

前項ノ規定ニ依リ編入シタル資金ニシテ歲入殘餘ヨリ成リタルモノハ之ヲ東京高等農林學校又ハ函館高等水產學校ノ資金トシテ區分整理スベシ

昭和九年度帝國大學特別會計歲入歲出豫算中翌年度ニ繰越ヲ要スルモノニシテ東京帝國大學農學部ノ實科及北海道帝國大學附屬水產專門部ニ關スルモノハ之ヲ學校及圖書館特別會計ニ繰越使用スベシ
北海道帝國大學總長ニ經理ヲ委任シタル獎學寄附金ニシテ北海道帝國大學附屬水產專門部ニ屬スルモノノ支拂殘額ハ學校及圖書館特別會計法第十一條ノ規定ニ依リ函館高等水產學校長ニ經理ヲ委任シタルモノト看做ス

附則

本法ハ昭和十年度ヨリ之ヲ施行ス

〔政府委員男爵矢吹省三君登壇〕

○政府委員(男爵矢吹省三君) 只今議題トナリマシタ造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營費ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、造幣局ノ工場ハ多年使用シテ參リマシタ結

果、是ガ改築ノ必要アルヲ認メマシテ、既ニ二回ニ互リ是ガ新營費ノ豫算ヲ計上シ、新營致シマシタガ、殘存工場ノ一部及廳舎モ亦改築ヲ要シマスルト共ニ、現在ノ金庫ハ廳舎ノ地下室ヲ利用シテ居リマス關係上、極メテ不完全且ツ狹隘デ、不便尠ナカラザルモノガアリマスノデ、此際等ノ用ニ供スル建物及其附屬設備ノ新營スルノ必要ガアリマス、仍テ昭和十年度乃至同十二年度ニ互リ、右建物及其附屬設備ノ新營計畫ヲ立テタノデアリマスガ、其財源ハ一般會計ノ現狀ニ鑑ミ、造幣局資金ヲ繰入レテ、之ニ充ツルコト、致シマス爲メ、本法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上協賛セラレンコトヲ希望致シマス

次ニ議題トナリマシタ東京高等農林學校及函館高等水產學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、東京帝國大學農學部ノ實科及北海道帝國大學附屬水產專門部ハ、各、昭和十年度ヨリ之ヲ獨立セシメテ、東京高等農林學校及函館高等水產學校ヲ創設スルコト、致シマス爲メ、昭和九年度末現在ノ東京帝國大學資金ニシテ、東京帝國大學農學部ノ實科ノ用ニ供スルモノ、昭和九年度東京帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ、同帝國大學農學部ノ實科ニ關シ生ジタルモノ、及同年度北海道帝國大學ノ歲入殘餘ニシテ、同帝國大學附屬水產專門部ニ關シ生ジタルモノハ、之ヲ學校及圖書館特別會計資金ニ編入スル等、帝國大學特別

會計ト學校及圖書館特別會計トノ關涉ニ關
スル規定ヲ設クルノ必要ガアリマスノデ、
本法律案ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒
御審議ノ上、協賛セラレンコトヲ希望致シ
マス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマ
ス、順次之ヲ許シマス——壽原英太郎君

(壽原英太郎君登壇)

○壽原英太郎君 只今上程セラレマシタ函
館高等水産學校ノ法律案ニ關聯致シマシ
テ、文部大臣及農林大臣ニ二三ノ質問ヲ致
シタイノデアリマス、此度北大水産專門部
ヲ廢止サレ、新ニ獨立シタ所ノ我國最初ノ
高等水産學校ガ、來ル四月カラ開校サレル
ノデアリマス、是ハ洵ニ國家ノ爲メ、業界
ノ爲メ大ニ祝福セネバナリマセヌ(拍手)此
際水産業ノ將來ニ付テ、文部大臣ノ御所見
ヲ伺ヒタイノデアリマス

今日我國産業ノ中デ、水産業ガドウ云フ
地位ニアルカニ付キ、朝野人士ノ間ニ的確
ニ認識ヲ有セラレル方ハドレ程アリマセウ
カ、我國ノ水産業ハ年々長足且ツ飛躍的ナ
進歩ヲ爲シテ居ルノデアリマス、其漁撈額
ダケデモ年額四億萬圓ト云フ數字ヲ現ハシ
テ居リマス、又輸出貿易ノ上カラ眺メテ見
マシテモ、彼ノ纖維工業品ニ次ギマシテ、
我が水産物が巨額ノ輸出高ヲ示シテ居ルノデ
アリマス、古來我國ノ漁業ハ海ノ幸トシテ
長ク發達シテ居リマス、彼ノ勇敢ナル所ノ
漁夫ハ櫓ヲ頼リニ、小船ヲ以テ大洋ヘ漕
ギ出シ、絶エズ怒濤ト闘ヒ、四海ニ魚族ヲ逐

ウテ活動シテ參ッタノデアリマス、併ナガラ
其漁撈法タルヤ洵ニ幼稚ナ爲メ、明治ノ時
代マデハ、主トシテ沿岸漁業ガ榮エ續ケラ
レテ參ッタノデアリマス、然ルニ日露漁業條
約ガ締結セラレマシテカラ、我國ノ漁業ニ
一轉機ヲ劃シテ參リマシタ、即チ漁場ハ「カ
ムチャツカ」カラ北千島「アリューシャン」群
島マデモ展開サレマシタ、又漁船ハ動力即
チ發動機船ガ利用セラレタノデ、漁撈ノ規
模ハ擴大サレ、企業化サレタノデアリマス、
我國ノ地勢ハ水産ニ付テ實ニ天恵ノ利ヲ得
テ居ルノデアリマス、西南ヨリ東北ヘ蜿蜒
ニ千里ノ間、大小多數ノ島ガ並ンデ居ルノ
デアリマス、所謂四面環海、剩ヘ是等島嶼
ヲ繞ル海岸ニハ、寒流暖流相錯シ、相圍
繞シマスルノデ、魚族ノ繁殖ノ上ニ、棲息
ノ上ニ絶好ノ地形ヲ成シテ居ルノデアリマ
ス、搗テ、加ヘテ進取敢爲ノ氣性ニ富ム我
ガ大和民族ハ、天才的ニ優秀ナル漁撈技術
ヲ有シテ居リマスルコトハ、洵ニ鬼ニ金棒
之ニ適當ナル保護施設ヲ爲シタナラバ、遠
カラズ世界第一ノ漁業國トシテ、永遠ニ榮
エテ行クモノト固ク信ズル者デアリマス(拍
手)

斯ノ如ク有望ナル、又重要ナル産業ニ關ス
ル教育施設ヲ眺メテ見マスル時ニ、實ニ寂
シク感ゼシメラレルノデアリマス、今以テ
水産大學ト名付クル最高學府ヲ設ケタイト
云フ聲モ聞キマセヌ、又農科大學内ニモ獨
立シタ水産部ガアリマセヌ、僅ニ駒場大學
内ニ三四ノ水産講座ガアルバカリデアリマ

ス、是等ノ點カラ見マシテモ、政府ニ於テ
モ、國民ニ於テモ、今日マデ水産業ノ上ニ
何等認識モナク、注意モナク、常ニ虐待シ
テ居ッタノデアリマス、幸ヒ此時函館ノ高
等水産學校ガ生レ出ルコトハ確ニ一進歩デ
アリマス、最モ此外ニ北海道ノ高等專門學校
ニ準ズルモノガ、農林省直轄ノ水産講習所
一ツアリマス、唯此二ツノ高等專門學校、
ソレガ不幸所管ヲ異ニシテ對立ノ有様ヲ現
シテ居ッテハ、果シテ兩全ヲ期スルコトガ
出來マスカ、洵ニ不安ニ堪ヘナイ次第デア
リマス、先日海軍大臣ハ餅屋ハ餅屋ト言ハレ
マシタ、洵ニ味ヒノアル言葉デアリマス、
之ヲ水産教育ノ上ニ當嵌メテ考ヘマスルニ、
産業ニ緣遠イ文部省ノ下ニ水産學校ヲ置ク
カ、或ハ商工學校ハ商工省、水産農林學校
ハ農林省ノ主管ノ下ニ置クカ、何レガ適當
デアルカ、目下文部省内デ學制改革ノ上ニ

色々調査研究セラレテ來テ居リマスガ、此
際之ニ付テ御所見ヲ承リタイノデアリマス
尙ホ函館高等水産學校ニ付テ伺ヒタイ、
實ハ此學校ハ惡ク言ヒマス、北大專門部
ノ改造ニ過ギナイノデアリマス、而モ創設
ト決定致シマシテカラ此方、文部省ノ豫算
ガ年々切詰メノ上ニ切詰メラレ、校舍ハ樋
カ函館市ノ寄附ヲ仰イデ居リマス、尙ホ其
他校外ノ設備モ、洵ニ貧弱ナルヤニ聞イ
テ居リマス、言フマデモアリマセヌ、教育
ノ眞價值ハ外觀ヲ設備デハ評スベキモノデ
ハアリマセヌ、即チ其眞髓ハ内容ノ充實ニ
俟タナケレバナリマセヌ、今日此業界ニ於

キマシテハ、何トカ學理ノ上ニモ亦實踐ノ
上ニモ、豐富ナ專門知識ヲ有チ、又手腕ヲ
有スル人格、高潔ナル卒業生ノ簇出ヲ待望
シテ居ル次第デアリマス、然ルニ巷間傳フ
ル所ニ依リマス、函館デハドウモ權威ア
ル博學ノ教授ヲ手ニ入レルコトガ出來ナイ、
ムヅカシイダラウ、ソレハ一ツハ地理ノ關
係、一ツハ豫算ノ關係上困難ナ問題トモ噂
サレテ居ルノデス、折角我國ニ初メテノ水
産高等學校トシテ、設備ガ不十分デアリ、
良イ教師ガ入レラレナイトケチ付ケラレ、
兎角將來ヲ危ブマレルコトハ、洵ニ遺憾ナ
次第デアリマス、此點ニ付キマシテ當局ハ
如何ナル御意思ヲ有ッテ居ラレマスルカ

元來我國學校教育ノ方針ト致シマシテ、
學生ガ卒業後社會活動ニ入ルマデ保護セラ
レ、斡旋セラル、コトガ殆ド無カッタノデア
リマス、然ルニ經濟界ノ絶エザル變動ハ、卒
業生ノ就職ヤ生活ノ上ニ、當局ハ絶エズ頭
ヲ悩マサネバナラス世相トナッタノデアリ
マス、聞ク所ニ依リマス、是マデ此北大
專門部カラ毎年僅カ五十名位シカ卒業生ガ
送り出サレヌニモ拘ラス、ソレ等ノ中ニ往
往就職難ニ陥ッタト云フコトヲ聞イテ居ル
ノデアリマス、其原因ハ、此業界ガ盲目ノ
故デアルカ、將又學校ノ教育宜シキヲ得ズ
シテ、業界ヨリ敬遠サレル結果デアリマス
ルカ、今回新シク學校ヲ御造リニナルニ付
キマシテモ、此卒業生ノ就職問題ガ解決シ
テアリマセウカ、ドウデアリマセウカ、之
ニ付キマシテモ當局ハ深ク思フ致シテ貰ヒ

タイ、折角學校ハ出來テモ、是等ノ卒業生ガ社會ニ出テ流浪シ、所謂知識階級ノ失業者ガ簇出スルコトハ、是ハ決シテ教育ノ本旨ニ適フモノデハナイノデアリマス、此産業關係ノ學校デハ、學問ト云フヨリハ實踐ニ力ヲ入レルコトガ肝要デアリマス、學習、實習、學習、所謂「サンドウィッチ・システム」トカ謂ハレルヤウナ經營方法デ、其卒業生ヲ直チニ業界ニ役立タシムル方策ニ進ンデ貫ヒタイノデアリマス、殊ニ此本校ニ付キマシテハ、前身北大專門部ガ常ニ道内ノ漁業者ト協力シ、其發展ヲ見タ例モアリマス、將來我國ノ漁業ガ北洋ヲ中心トシマスル以上、此學校ノ經營、否教育ノ方針モ、適地主義ヲ以テ北海道ノ漁業方針ニ呼應シ、又道内外ノ漁業家ノ意嚮モ尊重シテ貫ヒタイノデアリマス、實ニ北海道ノ水産物ハ年額一億三千万圓、日本全體ノ三分ノ一ニ上ッテ居リマス、而モ其魚族ハ、太平洋トカ南洋トカト非常ニ趣ヲ異ニシマシテ、鮭、鱒、鰯、蟹、鰯ト北海獨特ノ魚族ガアリマス、自然是等特殊魚族ノ繁殖養殖ヨリ廻游路ノ研究ニ至ルマデ、此學校ヲ煩スモノガ中々多イト考ヘマス、近時北海道モ道是ト致シマシテ、農産物ノ壘ヲ摩スル此重要水産業ニ付キマシテ、格段ノ保護ヲスルコトニナリマシタ、既ニ沿革數箇所ニ漁港及船入灣ガ修築サレテ、沖合漁業者ノ爲ニ非常ナル便益ヲ與ヘテ居リマス、學校當局ハドウカ是等ノ實情ヲ御斟酌下サイマシテ、ソレ等ト連絡ヲ保ツコトハ、北方水産業ニ

裨益スルバカリデアリマセス、聽テ卒業業者ノ捌ケ口ニ對シ、其煩累ヲ一掃シ得ルモノト信ズルノデアリマス

次ニ一般漁業政策ニ付テ農林當局ニ御伺致シタイ、今日農家ノ窮乏、農村ノ救済ニ付キマシテハ、刻下危急ノ大問題トシテ、朝野舉ゲテ是ガ善後策ヲ講ジテ居ルノデアリマス、政府當局ニ於カレマシテモ、數年來匡救土木ヲ初メ災害復舊ノ如キ、應急ノ施設ハ申スマデモナク、或ハ米穀對策委員會ヲ作ッテ、米穀ノ調節ヲ圖ラレル、又養蠶製絲ニ對シテモ、桑園ノ整理、乾繭處理等色々ナ政策ガ加ヘラレテ居ルノデアリマス、當局ハ口ヲ開クト農漁山村ト一律ニ取扱ハレルガ、實際ハ一般農村ニ較ベテ、漁村ヘノ救済保護ハ洵ニ徹底シテ居リマセス（ヒヤヒヤ「拍手」）尤モ匡救事業ノ御蔭デ各所ニ船入灣ガ出來、漁港ガ修築サレ、又養殖ノ方面ニ、遠洋漁業ノ方面ニ、獎勵補助サレテアルコトハ事實デアリマスルガ、其總額タルヤ實ニ僅少ナモノデアリマス、今日水産ニ從事スル人ハ百五十万人ト言ハレテ居リマス、又其漁撈、養殖、製造、總生産額ヲ勘定致シマス、六億ニ達セントシテ居ルノデアリマス、此重要ナル産業ニ政府ハ一體ドウ云フ施設、又如何程ノ支出ヲ爲シテ居ラレマスルカ、此十年度ノ豫算表ヲ見マスト、農林省ノ管下ニ於テ、一切合財合セテ水産ニ對シテ、ヤット二百万圓ヲ出シテ居ルヤウナ風デス、彼等漁民ハ毎日懸命ケデ働イテ居リマス、ソレハ丁度軍人ノ戰場

ニ在ルト同ジコトデアリマス、其汗ヤ脂ノ結晶ハ、今日國家經濟ノ上ニ多大ノ貢獻ヲ爲シテ居ルノデアリマス、其緊張セル情勢——功勞ニ對シマシテ、政府ノ施設ハ是デ適切ト言ハレマセウカ、翻リマシテ是等漁民ノ實際生活ヲ見マスル時、洵ニ涙グマシイ狀態デアリマス、沿岸漁業ニ於キマシテハ年々漁獲高ハ減リ、又一方大資本家ノ手ニ依ッテ祖先以來ノ漁業權ガ奪ハレ、其職ヲ失ヒ、勢ヒ小型發動機ニ身ヲ委セテ、遠ク沖合ニ其日稼ギヲセナケレバナラヌ現狀デアリマス、而モ其自由ナルベキ公海沖取漁業サヘモ、今ヤ統制ニ縛ラレントシテ居ルノデアリマス、此大衆ノ職業ヲ如何ニシテ安定セシメルカハ、爲政者ノ大責任ト私ハ信ズル者デアリマス（拍手）

尚ホ彼等ノ最モ苦痛トスル所ハ金融ノ困難デアリマス、例ヲ北海道ニ取リマスト、今日漁民ノ負債總額三千万圓ニ上ッテ居リマス、而モ其六分ハ個人貸借、而シテ今日此低金利ノ世ノ中ニ於キマシテ、一割五分ト云フ高利ノ金ガ、水産界ニ千万圓以上モ運轉サレテ居ルノデアリマス、當局ハ申サレマセウ、大藏省ノ低利資金ガ漁業組合、水産組合ノ手ヲ經テ融通サレテ居ルト、尤モ北海道デモ二百万圓バカリハ其恩典ニ浴シテ居リマスルガ、其殘リハ實ニ此組合ノ信用スラモ受ケ得ナイ所ノ大衆デアアルノデアリマス、一體農漁山村又中小商工業者ニ、政府ハソレノ低利資金ヲ貸付ケル仕組ニハナッテ居リマスルガ、洵ニ其運用ガ拙イ

ノデアリマス、第一ニ其手續ガ煩瑣デアル、又其大部分ハ地方廳トカ、市町村トカ、組合トカバ保證ノ地位ニ立ツ義務ガ發生スルノデ、更ニ徹底シナイノデアリマス、何トカ此低利資金普及ニ付キマシテ、新シキ考案ノ捻出ヲ要望スル者デアリマス、大體此漁民ハ農民トハ違ヒマシテ、土著團結隣保共助ノ精神ニ乏シイ、隨テ團體的ニ當局ニ陳情ヲスルコトモナイ、又其性質ガ洵ニ淡泊デ男性的デアアルガ爲ニ、他ニ泣キヲ入レルヤウナコトヲ敢テ好マナイ、是等ノ關係カラ致シマシテ、彼等ノ窮狀ヲ、中々中央ニ反映スルコトガ出來ナイノデアリマス、之ヲ洵ニ遺憾トスル者デアリマス

次ニ北千島ノ沖取漁業ニ付テ伺ヒマス、近時漁船ノ發達ハ沿岸漁業ヨリ沖取漁業ニ向ッテ著シキ進展ヲ見セテ居ルノデアリマス、彼ノ「カムチャッカ」ニ於ケル沖取漁業ハ、其沿岸漁業ニ劣ラヌヤウナ成績ヲ擧ゲテ居ルヤウニ聞イテ居リマス、是等ノ沖取漁業ノ漁獲物ガ相集ッテ、所謂領海外ノ公海ニ於テ毎年數千万圓ニ上ル水揚げガ計上セラレテ居ル、然ルニ近時産業界ニ於ケル統制病ハ到ル處ニ蔓延致シマシテ、合同トカ制限トカノ美名ノ下ニ、各自ノ職業ノ自由ガ段々束縛ヲ受ケテ居ルノデアリマス（拍手）

現ニカムチャッカ沖取業者ノ合同ガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、其半面ニハ從來其附近ニ活動シタ幾百ノ發動機船漁業ハ「オホツク」海ニ出動スルコトガ出來ナイヤウナ運命ニ立至ッタコトヲ悲シム者デアリマス、

ノデアリマス、第一ニ其手續ガ煩瑣デアル、又其大部分ハ地方廳トカ、市町村トカ、組合トカバ保證ノ地位ニ立ツ義務ガ發生スルノデ、更ニ徹底シナイノデアリマス、何トカ此低利資金普及ニ付キマシテ、新シキ考案ノ捻出ヲ要望スル者デアリマス、大體此漁民ハ農民トハ違ヒマシテ、土著團結隣保共助ノ精神ニ乏シイ、隨テ團體的ニ當局ニ陳情ヲスルコトモナイ、又其性質ガ洵ニ淡泊デ男性的デアアルガ爲ニ、他ニ泣キヲ入レルヤウナコトヲ敢テ好マナイ、是等ノ關係カラ致シマシテ、彼等ノ窮狀ヲ、中々中央ニ反映スルコトガ出來ナイノデアリマス、之ヲ洵ニ遺憾トスル者デアリマス

次ニ北千島ノ沖取漁業ニ付テ伺ヒマス、近時漁船ノ發達ハ沿岸漁業ヨリ沖取漁業ニ向ッテ著シキ進展ヲ見セテ居ルノデアリマス、彼ノ「カムチャッカ」ニ於ケル沖取漁業ハ、其沿岸漁業ニ劣ラヌヤウナ成績ヲ擧ゲテ居ルヤウニ聞イテ居リマス、是等ノ沖取漁業ノ漁獲物ガ相集ッテ、所謂領海外ノ公海ニ於テ毎年數千万圓ニ上ル水揚げガ計上セラレテ居ル、然ルニ近時産業界ニ於ケル統制病ハ到ル處ニ蔓延致シマシテ、合同トカ制限トカノ美名ノ下ニ、各自ノ職業ノ自由ガ段々束縛ヲ受ケテ居ルノデアリマス（拍手）

尤モ此「カムチャツカ」漁業ハ日「ソ」漁業ノ國際協定モアリ、又業者間ニ於テ此漁獲物——

罐詰品ノ品質統一ヲ爲シテ、海外市場ニ日本品ノ名聲ヲ博セントスル事情モアリマス

コトナレバ、今日ハ輕々シク其可否ヲ論ズルコトハ遠慮致シマス、次ニ北千島ノ流シ

網沖取ハ、本省ニ於テ僅カニ二百艘ト制限サレテ居ルノデス、此制限ニ對シテ今年出願

ヲシタ者ガ千有餘件アルト言ハレテ居リマス、而モ其許可セラル、モノ、多クハ、大資

本系統ニ屬シテ居リマスルガ故ニ、中小漁業者ハ更ニ其恩典ニ浴セスト斷ジテモ過言

デハアリマセヌ、北洋漁業ノ大寶庫ノ扉ハ開カレテ待テ居リマス、領海ノ外ニ於テ

我國ハ今日ノ數倍、數億圓ノ漁獲ヲ爲シ得ル此好機會ニ、當局ハ何ガ故ニ斯ノ如キ極

端ナル制限ヲ爲スカ、又斯ノ如キ制限ガ果シテ策ノ得タルモノナリヤ否ヤ承リタイ、

尤モ其答辯ニハ必ズ漁業ノ永遠性トカ、蕃殖妨害トカ申サレルデセウ、併シハ餘リ

ニ眼界ノ狭イ見方デ、西ハ沿海州ヨリ東ハ「ペーリಂಗ」海ニ至ルマデ七千哩乃至一萬

哩ノ海岸線ヲ有スル此大海ニ於キマシテ、一萬ヤ二萬ノ發動機船ガ活動致シマシテモ、

到底無盡ノ漁業ハ獲リ盡シ得ナイノデアリマス、即チ漁業ハ無盡藏ト見ルノガ常識デ

アル、此狭イ見方ト、又沿岸漁業者ノ苦情ヲ極ニ、極端ナル制限ヲ加ヘルコトハ、我

ガ水産業ノ將來ニ取ツテ甚ダ殘念ナ次第デアリマス（拍手）殊ニ北千島ノ開發ハ、國防

ノ上カラモ重大ナル意義ヲ有ツテ、色々ナ施設ヲ要スルノデアリマス、就中避難港トシ

テ、漁港トシテノ急設ヲ叫ブ者デアリマス、先ヅ第一、彼ノ有望ナル摺鉢灣ノ修築デア

リマス、此處ニ越年スル、即チ冬越シヲスル移民、又土著スベキ所ノ漁民ヲ獎勵スル、

而シテ長ク北洋漁業ノ前進大根據地ト致シマシテ、汽船ノ碇泊ハ勿論、各種水産物ノ

貯藏、製造ノ施設ヲ爲シマシテ、今日失業シテ居ル所ノ發動機船業者ノ幾分デモ救済

スルコトガ出来マシタナラバ、洵ニ喜バシイ事ト存ズルノデアリマス（拍手）

次ニ中部千島ノ開放ニ付テ御伺シタイ、中部千島ハ臘臘獸保護條約ニ依ツテ漁業ヲ

禁止サレテアルト聞イテ居リマス、一體此保護條約ハ、其締結當時ハ是等ノ海獸ガ

貴重品トシテ保護スル必要ガアリマシタケレドモ、モウ今日デハ其意味ガ解消サレテ

居リマス、價格モ非常ニ下落シテ居リマス、何ヲ苦ンデ此條約ヲ繼續サレテ居ルノ

カ不思議千萬デアリマス、而モ其條約ノ内容ヲ檢討致シマスル時ニハ、配分方法等全

ク不權衡極マルモノデ、今日軍備ノ平等ヲ叫ブト同様ニ、斯ノ如キ經濟上ノ平等極マル

無益ノ條約ハ、一日モ早く破棄サレンコトヲ要望スルモノデアリマス（拍手）加之此海獸

ガ夥シク蕃殖致シマス時ニハ、有益ナル所ノ漁業ノ被害ハ實ニ驚クベキモノデ、當局ハ

今日北洋漁業蕃殖保護ノ爲ニ漁業ニ大制限ヲ加ヘラレントシテ居ルニモ拘ラズ、此幾

十萬頭ヨリ成ル有害海獸ノ掃蕩ニ御氣付ガナイコトハ、洵ニ情ケナイ極ミデアリマス

（拍手）一方此保護條約ヲ廢棄シテ、有害ナル海獸ヲ撲滅セシメ、他方中部千島ヲ開放

シ、漁區域ノ擴大ヲ期スルコトガ適切ナル處分ト私ハ信ジマス

終リニ、總テ是等廣汎ナル所ノ漁業ノ許可權一切ハ、今日ハ中央ニ統一サレテ居ルノデアリマス、ソレガ果シテ策ノ得タルモ

ノデアリマスルカ、是等ノ北洋漁業ニ付キマシテハ、北海道廳ハ重大ナル關係ニ置カ

レテアリマス、而モ業者ハ一々此地方廳ヲ通ジ、遠ク離レタ中央ニ指揮ヲ仰グガ爲

ニ、往々機ヲ逸スル憾ガアルノデアリマス、宜シク我黨年來ノ主張、即チ地方分權

ノ現レノ一ツト致シマシテ、此特殊漁業ニ對シ、地方ト利害ヲ共ニシ其事情ニ通ズル

北海道廳ニ全權ヲ委任サレ、自由ニ其手腕ヲ揮ハシムルコトハ、北海漁業ノ前途ヲ益

繁榮ナラシメ、其健全發達ヲ促スモノト信ズルノデアリマス（拍手）以上申上ゲマシタ

所ノ質問ニ對シ、親切明快ナル御答辯ヲ要求致シマス（拍手）

（國務大臣松田源治君登壇）

○國務大臣（松田源治君） 壽原君ニ御答致シマス、我國ノ水産業ハ、我が國情ニ依ツテ

極メテ重要ナル産業デアリマス、是ガ振興ニハ當局トシテ、水産教育ノ普及及發達ヲ緊

要トシテ居ルノデアリマス、其爲ニ水産教育ノ特異性ヲ考慮致シマシテ、實業教育費

國庫補助ニ付キマシテ、從來ノ補助ト、新ニ増額シタル所ノ補助トヲ併セマシテ、地

方水産學校十三校ニ對シテ、約五萬七千圓ヲ交付シテ居リマス、今回北大ノ水産專門

部ヲ高等水産學校ト致シタノモ、全ク我國ニ於ケル水産教育ノ特異性ヲ認メテ、其機

關ノ充實整備ヲ圖ル爲デアリマス、此專門學校ハ四月カラ授業ヲ開始スル積リデアリ

マスガ、將來此經常費ニ付キマシテモ、篤ト私ハ其増額ニ付テ考慮致シタイト考ヘテ

居リマス、次ハ農林省ニアル水産講習所ヲ文部省ト一緒ニシテハドウカト云フヤウナ

御質問デアリマシタガ、是ハ研究スベキ事ガアルノデアリマシテ、農林省ト交渉シマ

シテ——今學制改革モヤツテ居ルノデアリマスカラ、交渉致シテ適當ナル結果ヲ得タ

イト考ヘテ居リマス、ソレカラ水産方面ノ就職者ニ付テ困難デアルト云フコトデアリ

マシタガ、水産方面ノ學校ノ卒業業者ハ、最近幸ヒ就職ノ狀況ハ好良デアアルノデアリマ

ス、尙ホ此點ニ付テハ篤ト注意致シタイト思ヒマス、又當業者ト連絡ガ必要デアル、

是ハ御尤ナ事デアリマス、當局ト致シマシテハ、當業者ト連絡スルコトニ努メタイト

考ヘテ居リマス、ソレカラ水産學校ノ教育ノ方針ハ、實習ノ練習ヲ尊重シマシテ、學

理應用ニ重キヲ置イテ、地方水産業ニ貢獻セントスルコトニ付キマシテハ特ニ留意致

シテ居ル次第デアリマス、此段御答致シマス（拍手）

（政府委員守屋榮夫君登壇）

○政府委員（守屋榮夫君） 豫算總會ノ方ニ參ッテ居リマシテ、大臣ガ御答辯ヲ致シ兼マ

スカラ、御許シヲ得マシテ私カラ申上ゲマ

ス 壽原君ノ御質問ハ三點ニアッタヤウデゴザイマス、其第一點ハ、漁村ニ對スル施設ガ少イト云フコトニ付テノ御質問デゴザイマシタ、是ハ豫算總會ニ於キマシテ、農林大臣カラモ其趣旨ヲ申サレタノデアリマスガ、昨年全面的ナ災害ガ起リマセナンド場合ニ於キマシテハ、農漁山村ノ更生ニ付キマシテ、親切ニ考慮致シ、適當ナ計畫ヲ樹テル考デアッタノデアリマスガ、不幸ニシテ全面的ナ災害ヲ被リ、ソレガ匡救ノ爲ニカラ致サナケレバナラナカッタヤウナ事情カ致シマシテ、只今御協賛ヲ御願シテ居リマスル本年度豫算ノ程度ニシカ、漁村ニ對シマシテモ施設ガ伸ビナカッタ次第デゴザイマス、併シ漁村ノ窮乏ヲ何トカシナケレバナラスト云フコトハ、農林當局ト致シマシテモ痛切ニ感じテ居ルコトデゴザイマスカラ、御趣旨ニ基キマシテ、今後十分努力致ス考デゴザイマス、第二點ハ、北千島沖取漁業ニ關スルモノデアリマシテ、附屬漁船ヲ制限スルコトハ、如何ニモ可哀相ナコトデハナイカト云フノデアリマシタ、此事ニ付キマシテハ、實ハ北千島ノ沖取漁業ハ目下試験時代デアリマスカラ、其試験ノ結果ニ俟チマシテ、適當ナ措置ヲ講ゼネバナラスト考ヘテ居ル次第デゴザイマスルガ、唯北洋全面ノ鮭鱒族ナリ、蟹ナリノ保護ノ見地カラ考ヘマシテモ、亦北海道ノ沿岸漁業ノ將來ニ於ケル發展ノ點カラ考ヘマシテモ、或ル程度ノ統制ヲ加ヘルコトガ必要ダト考ヘテ居ルノデアリマス、又北

千島ニ於ケル沖取漁業ノ漁獵物ヲ材料トシマシタ製品ハ、國際的ナ商品デアリマシテ、國際的市場ノ現況ニ鑑ミマシテ、其製造ニ付テ相當ノ調節ヲ加ヘナケレバナラス狀況ニナツテ居ルノデアリマスカラ、ドウモ御希望ノヤウニ之ヲ擴張スルト云フヤウナコトニハ參ラヌノデハナイカト考ヘテ居リマスルガ、併シソレカト言ツテ是レ以上ノ制限ヲスルト云フヤウナコトニ付キマシテハ、マダ當局トシテ定ツタ意見ヲ有ツテ居ル譯デハゴザイマセヌ、兎ニ角國際的商品ニ關スルコトデゴザイマスルシ、又魚族ノ保護ヲ圖リマシテ、將來沖取漁業ガ永續スルヤウニシタイト云フ考ヲ以チマシテ、當局ニ於テモ慎重ニ考慮シテ居ルヤウナ次第デゴザイマスカラ、御含ミ置ヲ願ヒタク存ジマス、第三ハ中部千島ノ開放ノ事デゴザイマシタ、之ニ關シテハ國際條約ガゴザイマシテ、臘鰐獸ガ繁殖致シ、魚族保護ノ上ニ付テ遺憾ガアルト云フコトニ付キマシテハ、當局ト致シマシテモ十分諒承致シテ居ルノデアリマス、併シ何分ニモ國際的條約ニ關スル事デアリマスルシ、是ガ改廢ニ付キマシテハ他ノ國トノ關係ヲ持ツヤウナ次第デアリマスルカラ、御趣旨ニ基キマシテ、今後はガ解決ノ爲ニ盡力致シタイ考デゴザイマス、不十分デゴザイマセウガ、是ダケ御答致シマス（水産金融ハドウシタ）ト呼フ者アリ（水産金融ノコトニ付キマシテモ、先程壽原君カラ御話ガアリマシタヤウニ、漁業組合法ノ改正ニ依

リ其途ヲ開イテゴザイマス、手續ノ惡イ點ハ十分改メマシテ、御趣旨ノ實現ニ努メタイト考ヘテ居リマス

○議長（濱田國松君） 壽原君、御尋ハアリマセスカ

○壽原英太郎君 御答辯ニマダ不滿ナ所ガアリマスケレドモ、何レ他ノ機會ニ質問シタイト思ヒマス

○議長（濱田國松君） 次ノ通告者、手代木隆吉君

（手代木隆吉君登壇）

○手代木隆吉君 私モ日程第四ニ付キマシテ、水産政策ノ一部分ニ付テ御尋ヲ致シタイト考ヘルノデアリマス、只今壽原君カラ頗ル適切ナル御質問ガアリマシテ、悉ク同感ヲ表スル所ノ者デアリマスルガ、文部當局ノ御答辯ニ依リマシテ、水産教育ニ付テハ、今後モ十分御努力ニナルト云フ御言明デハアリマスケレドモ、其御言明ダケデハ甚ダ心細イ感じヲ致スノデアリマス、函館高等水産學校ノ經費モ、將來大ニ増ス考ヲ有ツテ居ルト云ハレタノデアリマスガ、現在北海道大學ノ附屬專門部ノ經費ハ九万六千餘圓ニナツテ居リマス、函館高等水産學校ガ完成ヲ致シタ場合ノ經費ノ豫想ハ、大約二十万圓ト云フコトニ伺ツテ居ルノデアリマスルガ、形ノ上デハ約三倍ノ經費トナル譯デアリマスケレドモ、併シ之ニハ定員ガ二倍ニ増加ヲ致スノデアリマス、從來ノヤウニ附屬專門部デアリマシタ場合ニハ、自然經費モ節約ガ出來タ點ガアリマセウカ

ラ、ソレ等ノ點ヲ彼此レ比較ヲ致シマシテ、實際ニ是ガ專門學校トナツテ、經費ノ増額致ス所ノ金額ニ付テハ、相當ノモノガアルカモ知レマセスカケレドモ、一方生徒ノ定員ガ倍加スルヤウナ所カラ致シマシテ、餘リニ多クノ經費ヲ豫想シテ居ラレルトハ考ヘナイノデアリマス、壽原君モ言ハレマシタ通り、學校ノ教育ハ所謂學理ノ研究ダケデナクシテ、之ヲ實地ニ練習致シテ、何時デモ役ニ立ツヤウナ、左様ナ教育ヲ致サナケレバナラスト云ハレタ點カラ考ヘマスレバ、所謂實習ノヤウナモノニ相當ナル經費ヲ計上致サナケレバナラスト考ヘルノデアリマシテ、特ニ此點ニ付キマシテハ、文部當局ニ於テモ十分ニ留意セラレンコトヲ希望致スモノデアリマス

水産講習所ヲ文部省ニ移管スベキデアルト云フコトノ壽原君ノ御質問、洵ニ御同感デアリマシテ、文部當局ノ御答辯ハ只今學制改革ノ分ト併セテ研究中デアルト云フ御話デアリマスケレドモ、此問題ハ昨今ノ問題デハアリマセヌ、非常ニ古カラ文部移管ノ説ガ唱ヘラレテ來タノデアリマス、先年高等商船學校ガ遞信省カラ文部省ニ移管セラレタ例モアルノデアリマシテ、教育ヲ統一スル上カラ申シマシテ、當然是ハ文部省ニ移管セラルベキ所ノモノデアルト考ヘルノデアリマス、尤モ水産講習所ハ、其沿革ガ頗ル古ク、我國水産業ニ非常ナル貢獻ヲ致シタ功績ハ認メルノデアリマシテ、其沿革ハ尊重モ致スノデアリマスケレドモ、

併ナガラ今日北大ノ専門部ガ、三十年ノ歴史ヲ有スルモノヲ廢止ヲ致スナドニ比較致シマシテ、是ナドモ速ニ斷行セラレテ然ルベキモノデアルト考ヘルノデアリマス、次ニ地方費支辨ニ係ル此水産教育機關ニ對スル國ノ補助ニ關スルコトデアリマスガ、之ニ付キマシテハ文部大臣ヨリ相當ナル助成ヲシテ居ルヤウナ御答辯ガアッタノデアリマシテ、此助成タルヤウニ微々タルモノデアリマシテ、殆ド言フニ足ラナイモノデアルト考ヘルノデアリマス、水産教育ハ特殊ナ教育デアリマシテ、實習デアルトカ、或ハ其外特別ナル設備ヲ要スル所ノ學校デアリマス、隨テ多クノ經費ヲ要スルノハ當然デアリマス、今日我國ノ中等水産學校ハ甲種ガ十二校、乙種ガ一校、是ハ皆府縣ニ於テ非常ニ財政ノ窮迫シテ居ル場合、是等ノ學校ヲ維持スルコトガ容易デアリマセヌ、現在ノ此水産中等學校ノ經費ヲ見マシテモ、洵ニ貧弱ナルモノデアリマス、最モ經費ノ多イノハ岩手縣ノ宮古ニアル水産學校デアリマシマス、是ハ一箇年ノ經費五万七千七百十八圓、生徒ノ定員ガ百六十人デアリマス、最モ少イ方ニナリマス云フト、宮城縣ノ水産學校、定員二百人ニ對シテ一箇年一万九千餘圓デアリマス、尙又青森縣立水産學校ノ如キモ、二百五十人ノ定員ニ對シテ二万九百四十三圓、斯ウ云フヤウナ程度デアリマスガ、之ニ對シテ先程文部大臣ノ答辯セラレタヤウニ、此十三校ニ對スル國庫補助金ハ五万七千八百五十圓デアリマス、而

モ此中ノ三万三千八百圓ハ、新ニ増額セラレタ所ノモノデアッテ、從來ハ二万四千五百圓ヨリヤッテ居ラナイ、斯様ナ此金額ト云フモノハ、之ヲ十三校ニ割當ツレバ洵ニ少イ金額ニナル、而シテ水産學校ノ漁撈科ノ實習ニ用ヒテ居リマス所ノ實習船ノ如キモ、是ガ頗ル區々ニナッテ居ルノデアリマス、小樽水産學校ハ二十噸デ四十馬力ノ船、青森水産學校ハ七十八噸デ百六十馬力、岩手水産ガ八十噸デ百六十五馬力、宮城水産ガ四十三噸デ八十七馬力、千葉水産ガ百七十噸デ三百四十五馬力、能生水産ガ二十五噸デ五十五馬力、小濱ノ水産ガ二十五噸デ五十五馬力、燒津ノ水産ガ七十五噸デ百四十八馬力、志摩水産ガ百十七噸デ二百四十馬力、島根ノ商船水産ノ學校ガ五十噸デ百馬力、枕崎ノ水産ガ二十七噸デ五十五馬力、沖繩ノ水産ガ四十一噸デ八十三馬力、斯ウ云フヤウニ此實習船ガナッテ居リマスガ、一番少イノハ二十噸或ハ二十五噸、二十七噸、斯様ナ小サナ實習船デアリマスルカラ、是デハ決シテ十分ナル實習ヲスルコトガ出来ナイト思ヒマス、千葉水産ノ百七十噸ノ如キ、或ハ志摩水産ノ百十七噸ノ如キ、少クモ此程度ノ實習船ヲ使用スルノデナケレバ、十分ニ實習ノ效果ヲ擧ゲルコトガ出来ナイト考ヘルノデアリマス、尙又餘リニ小サナ實習船ニ生徒ヲ乗船セシメテ、沖合若クハ遠洋ニ送り出スト云フコトハ、又本人及父兄ニ對シテモ尠ナカラズ危惧ノ念ヲ與ヘテ、自然水産教育ノ振興ヲ期スル上ニ不

利益ヲ來スモノデアルト考ヘルノデアリマシテ、斯様ナ實習ヲ要スルヤウナ、此教育ニ對シマシテハ、少クモ文部省ノ此國庫補助ノ如キハモットノ増額セラレテ、少クモ現在ノ十倍ナリ二十倍ナリヲ考ヘラル、コトガ至當デアラウト思フノデアリマス、左様ナ點ニ付テ十分ニ文部當局トシテ將來考慮アリタイモノデアルト思フノデアリマス一體日本ノ水産業ハ、先程壽原君ノ言ハレマシタ通り、今日ハ世界第一デアリマス、次ハ亞米利加、英吉利、諸國、是等ノモノガ相次イデ居ルノデアリマスケレドモ、到底我國ノ此水産業ニハ及バヌノデアリマス、水産從業者ガ百五十万、漁船ノ數ガ三十七万、其中發動機船、動力ヲ有ッテ居ルモノハ四万五千、斯様ナ數ニ上リマシテ、漁獲高ニシマシテモ、沿岸漁業ニ依ル漁獲ガ五億萬貫、沖取、遠洋ニ於テ漁獲スルモノガ二億萬貫、其他鯨ガ一千數百頭、蟹ガ二千五百萬匹、鮭鱒ガ五十万石乃至六十万石、斯様ナ多額ニ上ルノデアリマスケレドモ、之ニ付キマシテハモットノ開拓ノ餘地ガアリ、又國策トシテ水産業ノ振興ヲ一段下期サナケレバナラスコトモ云フ迄モナイノデアリマス（拍手）只今農林當局ノ北洋漁業ナドニ對スル御意見モアッタノデアリマスガ、一體農林省ノ水産政策ト云フモノニ、私ハ確立致シタ方針ガナイヤウニ思ハレルノデアリマス、今ノ北洋ノ沖取ノ如キニ致シマシテモ、是ハ昭和二年ニ、今ハ故人ニナラレマシタ代議士平出喜三

郎君ガ初メテ沖取ノ仕事ヲ試驗ヲセラレタ、實行セラレタ、然ルニ甚ダ不幸ニシテ一舉ニシテ數百萬圓ノ損失ヲ招カレタノニ始マルノデアアル、左様ナコトカラシテアノ沖取ノ仕事ガ始ッテ、又今日ノ蟹籠詰ノ事業、殊ニ蟹工船ノ如キニシマシテモ、是ハ北海道ノ沿岸デ非常ナ濫獲ヲ致シテ、遂ニハ其事業ガ衰減ニ歸スルヤウニナッタコトガアルノデアアル、今日ノ機船底曳網ノ仕事ニシマシテモ、餘リニ之ヲ濫ニ許シタガ爲ニ、沿岸漁業者ニ非常ナル被害ヲ及シテ居ルト云フヤウニ、色々ナ點カラ見マシテ、所謂農林省ハ行當リバツタリ、先程守屋次官ノ御話ニ依レバ、北洋ノ漁業ハ今試驗時代デアルト云フコトヲ言ハレテ居ルガ、農林省自ラ確信ヲ以テ、此處ニ行ッテ斯様ナ漁業ヲ行ヘトカ云フヤウナ、其確實性ヲ明ニシテ、國民ニ之ヲ獎勵スルノニアラズシテ、全ク國民ノ犧牲ニ依ッテ、此水産業ノ振興ヲ期シテ居ルヤウナ風ガ見エルノデアリマス（拍手）是ハ洵ニ遺憾ナコトデアルト考ヘルノデアリマスガ、一體農林省デハ水産ニ對スル基本調査ト云フモノニ、甚ダ力ヲ入レラレナイヤウデアリマス、其一例トシテ申上ゲマスレバ、今日ハ所謂調査機關ト云フモノガソレノ仕事ニハアルノデアリマスガ、水産試驗場ハ國立ノモノガ一つヨリ現在アリマセヌ、農業方面ハ三箇所アリ、工業方面ニハ五箇所アリマス、其經費ノ如キ水産試驗場ハ二十萬圓、農業試驗場ノ方ガ三箇所デ六十萬圓、工業試驗場

ノ方ガ五箇所デ百六十萬圓、斯様ニ經費ノ點ニ於テモ非常ニ違ッテ居リマス、全ク斯様ナ結果研究ガ十分ニ行届カナイ、今日北海道ニ於ケル漁業ノ大宗デアリマス所ノ鯨ニ致シマシテモ、是ハ年々一億萬貫水揚げアルノデアリマスルガ、此鯨ニ付テノ研究ガ十分ニ行ッテ居ラナイ、如何ナル處ニ棲息致シテ居ルノデアルカ、一向分ラナイ、如何ナル處ヲ回游シテ來ルノデアアルカ分ラナイ、北海道ノ南ノ方ニ來ル鯨、或ハ日本海ノ方ニ來ル所ノ鯨、或ハ樺太ニ行ク鯨、一體何處カラ彼ノ回游ヲ見ルノデアアルカ、左様ナ點ナドニ付テモ、チットモマダ分ッテ居リマセヌ、隨テ唯産卵期ニ沿岸ニ回游シテ來ルモノヲ漁獲スルニ過ギナイノデアリマスルカラ、一向此漁ト云フモノガ當ニナラナイ、鯨漁業ガ二年モ三年モ不漁ガ續イタリ、或ハ今マデ相當ナ漁獲ノアツタ地方ガ、何十年ト鯨ガ獲レナクナツタリ、斯様ナ變遷ガ澤山アルノデアリマルガ、是等ノ問題ニ付テモ十分ニ研究調査ヲ致シマスルナラバ、鯨ハ日本ノ沿岸何レノ處ニ棲息スルカ、北洋ニモ鯨ガ居ルノデアリマスルガ、一體是等ノ鯨ノ棲息ノ場所、回游ノ狀態、斯ウ云フヤウナモノヲ十分ニ調査ヲ致シテ置ケバ、茲ニ企業ノ上ニ於キマシテモ、所謂山師的、投機的ノコトニナラヌヤウニ計畫ガ出來ルノデアリマス、亞米利加ニ致シマシテモ、諸威ニ致シマシテモ、是等ノ方ニ於キマシテハ、鯨ニ對スル所ノ研究モ十分ニ行届イテ、各デサヘモ鯨ヲ漁獲致シテ居ル、斯ウ

云フヤウナ實例ガアルノデアリマスルカラ、是等ニ付テモ十分ニ研究ヲ要スルコトデアラウト思フノデアリマス、又北洋ニ於ケル所ノ鯨ヤ鱈ノ問題デモ、是ハ同様農林次官ハ漁獲ヲスルトイカスト云フコトヲ言ハレルシ、壽原君ハ、アノ廣イ海ニ幾ラ網ヲ立テ、モ濫獲ニハナラナイト云フコトヲ言ハレタガ、ドツチガ宜イカ惡イカハ何ニ依ッテ判斷スルカ、矢張り今日ノ鯨同様、鯨ハ何處カラ來ルノデアアルカ、唯一「ベーリン」海ノ方カラデモ來ルデアラウト云フコト、併ナガラ日本内地ノ沿岸デ獲レルヤウナ鯨ハ、一體何處カラ來ルノデアアルカ、養殖ヲ致シテ居ルモノガ、鯨ノ所謂回歸性ニ依ッテ元ノ養殖サレタ河川ニ溯ルト云フコトハアルノデアリマスルケレドモ、色々鯨ノ棲息ノ場所、又其回游ノ所謂魚道ト云フモノガ明カナナイ、ソレデアリマスカラ、北千島デ以テ流シ網ニ依ッテ此鯨ヲ濫獲スルナラバ「カムサツカ」ノ漁業ニ直チニ影響ヲ及ボストカ、東「カムサツカ」ノ海岸デ多ク獲ルナラバ、西ノ方ハ薄漁ニナルトカ、色々ノコトヲ考ヘラレルヤウデアリマスケレドモ、ソレハ皆所謂臆上ノ想像ニ過ギナイノデアリマス、農林省ヘ行ッテ其方ノ専門家ニ伺ッテモ、一向明ナル答辯ヲ得ラレナイ狀態ニアル即チ今日所謂北進日本、我ガ北方開拓ト云フヤウナコトノ重大ナル時ニ當リマシテ、是等ノ事業ノ基本ニナル所ノ調査ガ一向出來テ居ラナイデ、唯所謂試驗時代ナド、言ッテ、民間ノ犠牲ニ依ッテ左様

ナ試驗ヲ爲サシメテ居ルト云フコトハ、甚ダ國家トシテ冷酷デアルト言ハナケレバナラスト思フノデアリマス（拍手）機船底曳網ノ問題ニ付テモ、是ハ多年ノ問題デ、議會ニモ毎回請願ガ多數出ルノデアリマスルガ、農林省ハ所謂今日ハ舊式漁業ノ時代デナイト云フヤウナ見地カラ、沖合漁業、遠洋漁業ヲ獎勵セラレル、洵ニ思付キハ結構デアリマス、左様ナコトニナラナケレバナラヌノデアリマスケレドモ、併ナガラ此舊式漁業ナルモノヲ十分ニ保護ヲシテ置イテ、其上ニ沖合及遠洋ノ漁業ヲ獎勵スルニ非ザレバ、今日ノ我國ノ所謂食料問題、牛肉ヲ多ク用ヒナイデ、殆ド魚肉ニ依ッテ我國ノ國民ノ保健ヲ致シテ居ル、斯ウ云フヤウナ此所謂沿岸デ五億萬貫ノ漁獲ガアリ、沖合デ二億萬貫ノ漁獲ガアル、此沿岸ニアル五億萬ノ水揚げアレバこそ、吾々ノ口ニ毎日新シイ所ノ魚ヲ用ユルコトガ出來ルノデアアル、此沿岸ノ漁民、而モソレガ百五十萬ノ大多數ハ此沿岸ニ居ルノデアリマスルガ、是等ノ生活ヲ奪フヤウナコトニナルヤウナ、此所謂企業化、機械化ト云フモノハ、大ニ慎マナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、此機船底曳網ナドモ農林省ガ濫ニ許シタ結果デアアル、今日現在許可數ガ二千九百三十三艘、其漁獲高ハ二千六百四十萬圓ニ達シテ居ルノデアリマスルガ、機船底曳ヲ許シテ居ル沿岸地方ニ於テ、沿岸漁民ト機船底曳業者トノ間ニ如何ニ爭鬭ガ行ハレテ居ルカト云フコトハ、能ク御承知ノコトデ

アラウト思フノデアリマス 臘肭獸ノ問題ハ壽原君ガ言ハレマシタガ、之ニ對スル御答辯モ甚ダ生溫イ御答辯デアリマス、臘肭獸ノ問題ハ、此議會ニモ十年前カラノ問題デアアル、外務省ニ交渉致シマシテモ、農林省ニ交渉致シマシテモ、今答辯セラレタヤウナコトデ今日マデ解決ガ付キマセヌ、樺太領有當時數千頭ニ過ギナカッタ臘肭獸ハ、今日ハ上陸スルモノダケデモ三萬頭ニ達シ、一箇年ノ產出數ガ一万三千ニ達シテ居ルノデアリマス、之ニ若シ千島ニ居ルモノヤラ色々ナモノヲ合計致シマスルナラバ、非常ニ大變ナ數ニ上ルコトハ想像出來ルノデアリマス、而シテ臘肭獸ハ一日ノ食料、鯨、鱈少クモ三尾ヲ要スルノデアリマス、假ニ三萬頭ノ臘肭獸ガ一日ニ三尾宛トシテ九萬尾ニ達スルノデアリマシテ、一箇月ニハ二百七十萬尾デアリマス、今日北洋ニ於ケル沖取ノ鯨、鱈ハ、紅鯨ガ二百萬チヨット超エマスルガ、其外銀鯨其他ノモノガ約六百萬、合セテ八百萬位獲レルノデアアルガ、臘肭獸ニ一箇年ニ食ハレル鯨ヤ鱈ノ方ガ遙ニ多イノデアリマス、斯ウ云フモノヲ其儘ニシテ置イテ、先程次官モ言ハレルヤウニ、北洋漁業ニ三割ノ制限ヲ加ヘテ、北千島ニモ同様加ヘルト云フヤウナコトハ、是ハ一向意味ヲ成サナイコトニナルト思フノデアリマス（拍手）能ク其邊ニ付テモ、眞ノ研究調査ヲセラル、コトガ必要デアルト思ヒマス モウ一ツ問題ニナリマスノハ鰯デアリマ

ス、是ハ我國沿岸漁業ニ於キマシテ、最重要ナル地位ヲ占メテ居リマス、沿岸漁獲高五億萬貫ノ中、二億六千五百萬貫ハ此鰯デアリマス、斯様ナ多額ナ鰯デアリマスガ、之ニ對シテ近頃鰯工船ト云フモノガ出現ヲ致シテ來テ居ル、鰯ノ業ヲ所謂企業化致シテ、大資本ニ依ッテ鰯工船ト云フモノガ方々ニ目論シテ居ルデアリマスルガ、是ガ即チ今申上ゲマシタヤウニ、沿岸漁業ヲ尠カラズ脅カスノデアリマス、諸君、沖合デ取ッテ居ル鰯工船モアルデアリマスルカラ、此沿岸漁業ニ影響ノナイ所ニ於テ鰯工船ヲ御許シニナルコトハ宜シイデアリマス、殊ニ北海道ノ噴火灣ニ於テ屢、鰯工船ガ目論見ラレテ居ル、アノ灣内ハ殆ド年中鰯ノ取レル日本ニ有數ノ鰯ノ產地デアリマス、此處ニ若シ工船ナドヲ許サレテ、アノ灣内デ其鰯ヲ處理セラル、コトニナリマスレバ、沿岸漁民ヘノ影響ハ至大ナルモノガアルデアリマス、是等ノ點ニ付テモ十分ニ研究調査ヲシ、考慮ノ上ニ誤リノ無イヤウニ期セラレルコトガ、必要デアルト考ヘルノデアリマス

次ニハ南洋ノ漁業ニ付テ御伺ヲ致シタイノデアリマス、只今拓務省ニ於キマシテハ、所謂南方進出ト云フコトヲ盛ニ唱ヘラレテ居リマスルガ、洵ニ結構ナコトデアリマス、滿洲ノ管轄ヲ失ツタ以上、南ノ方ニデモ仲ビルヨリ外ニハアリマセヌ、其點カラ申シマシテ、今日南洋ノ漁業ノ狀態ヲ見マス

ケレドモ、之ヲ他ノ植民地ニ比較致シマスルト、臺灣ガ昭和八年ノ統計ニ依ッテ見ルト千五百九十五萬圓、朝鮮ガ七千四百萬圓デアリマス、樺太ガ一千三百萬圓、關東州ガ四百二十五萬圓、斯ウ云フノニ比較致シマスレバ、非常ニ開拓ノ餘地ガアルコトハ言フマデモナイノデアリマス、或ハ現ニ行レテ居ルノモ十分ニ之ヲ擴張致シマシテ、殊ニ赤道以南ノ方マデ、或ハ印度洋、或ハ又南米方面マデ、斯様ナ方面ニ大ニ水産ノ振興ヲ期スルコトハ、所謂南方進出ノ點カラ見マシテ、重要ナル所ノ施設デアルト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通り我國ハ甚ダ陸ガ狭小ナノデアリマスルカラ、海ニ於テ伸ビルコトヲ考ヘルコトガ必要デアルト思フノデアリマス、之ニ對シマシテ拓務省デハ南洋群島開發調查會ト云フモノヲ設ケラレタヤウデアリマス、大臣ガ會長ニナツテ居ラレルヤウデアリマスルガ、是等ニ對スル所ノ調査費ト云フモノ、是ハ有ユルコトヲ調査セラル、ヤウデアリマスルガ、承レバ其金額ハ五萬圓程度ニ過ギナイト云フコトデアリマス、左様ナコトデ南洋群島開發ノ有ユル問題ヲ調査スルト云フコトハ、不可能ナコトデアルト思フノデアリマス、五萬圓位ノモノハ水産ノ調査ニモ間ニ合ヒマセヌ、斯様ナ金額ハ將來大ニ増加ヲシテ、所謂其基本調査ヲ十分ニセラル、コトガ、必要デアルト思フノデアリマス(拍手)臺灣總督府ニモ南方經濟調查會ト云フモノガ設ケラレテ、總督ガ會長ニナツテ居ルヤウデ

アリマス、是等ノ經費モ些々タルモノ、ヤウデアリマスルガ、之ニ對シマシテ相當ナ經費ヲ増額致シマシテ、十分ナル研究ヲセラ、ヤウニ期待ヲ致スノデアリマス、殊ニ南洋廳モ漁業ニ付テハ相當留意ヲシテ居ラレルヤウデアリマス、而シテ或ル程度ノ獎勵費ヲ支出シテ居ラレルヤウデアリマスケレドモ、是モ亦甚ダ少イ、昭和五年度ガ一万五千九百七十二圓、六年度ガ八千三百二十四圓、七年度ガ一万五千八百八十五圓、八年度ガ五千八百二十三圓、斯様ナ程度ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、九年ニ至リマシテハ五千七百二圓、餘リニ少イノデアリマス、是等ノ點ニ付テ十分ナル考慮ヲセラレルコトガ、必要デアルト思フノデアリマス、尙ホ漁業ノ根據地ノコトニ付キマシテハ、壽原君ノ言ハレタノト全ク同意見デアリマス、北洋ノコトモ壽原君ガ言ハレマシタガ、南方ノ方ニ於テモ此根據地ガ必要デアルト思ヒマス「巴拉オ」ニ僅カ十七八萬圓掛ケテ船入潤ヲ設ケラレタヤウデアリマスガ、左様ナモノハ何ノ役ニモ立チマセヌ、少クトモ一千万圓ナリ或ハ二千万ナリノ多額ノ經費ヲ投ジテ、大々的ノ根據地ヲ設ケル必要ガアルト思フノデアリマス、色々外交上ノ關係モアルカモ知レマセヌケレドモ、其點ハ十分御考慮アツテ然ルベキモノデアルト思フノデアリマス、是等ニ對シマシテ文部當局、農林當局及拓務當局ノ御答辯ヲ得タイト思ヒマス(拍手)

○國務大臣(松田源治君) 大體ハ壽原君ニ答ヘタ通りデアリマスガ、手代木君ノ質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、北大ノ水産專門部ハ、經費ガ十二萬圓デアル、今回ノ函館高等水産學校ノ經費ハ二十七萬圓、ソレカラ教授助教授等モ、十分殖シテ見タイト思ヒマス、而シテ日本ノ國情ニ鑑ミマシテ、水産業ノ充實發展ヲ圖リタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ此實業教育費ノ國庫補助總額ハ、僅ニ十五萬圓ナノデアリマス、總テノ實業教育ニ補助スル金ガ十五萬圓シカナイノデアリマス、ソレヲ此水産ノ我が國情ヨリ見テ、又其特異性ニ鑑ミマシテ、從來補助シテアル額ニ新ニ増額シタル所ノモノガ三萬三千八百圓、此水産業ニ向ッテノ國庫補助ハ、農商等ノ學校ヨリモ比率ガ良クナツテ居ルノデアリマス、之ヲ増額スルコトニ付テモ考ヘテ居リマスケレドモ、今ノ財政ノ狀態デハドウナリマスカ、此點ニ付テモ私ハ十分考慮ヲ致シテ見タイトハ思ッテ居リマス、ソレカラ水産講習所ヲ文部省ニ移管シテハドウカト云フ點デアリマスガ、此點ニ對シマシテハ壽原君ニ答辯シタ通りデアリマスカラ、是デ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(守屋榮夫君) 手代木君ノ御質問ニ御答致シマス、水産事業ノ方針ヲ確立シナケレバイケナイ、又基本ノ調査ヲスル必要ガアルト云フコトニ付キマシテ、御親切ナ御意見ハ謹ンデ拜聽致シマシタ、唯從來

水産ノ試験施設ニ付キマシテハ、農林當局ト致シマシテモ相當考慮シタノデアリマシテ、一時是ガ擴張ヲ計畫シタコトモゴザイマシタガ、政費ノ節約ヲセネバナラヌコトニナリマシテ、實行スルコトガ出來ナカッタ次第デゴザイマス、併シ今日ニ於キマシテハ國立、道立、府縣立ヲ合シマシテ四十一箇所ノ試験施設ヲ有ッテ居リマスルシ、ソレニ要シマシタ經費モ、昭和八年度ニ於キマシテ三百萬圓ニ達シテ居ルト云フヤウナ現状デゴザイマスカラ、今日マデノ水産業ノ發達ニ關シマシテ、相當ナル貢獻ヲシテ居ルト考ヘテ居ル次第デゴザイマス、併シ只今此處デ手代木君カラ御議論ガゴザイマシタヤウニ、近時我國ノ海洋漁業ト云フモノガ長足ナル進歩ヲ致シマシタ關係カラシテ、試験ノ地域デアリマストカ、試験ノ種類又ハ試験ノ範圍ト云フヤウナモノニ付キマシテ、相當改善ヲシテ行カナケレバナラヌ必要ハ農林當局トシテモ認メテ居ル次第デゴザイマス、之ニ付テ計畫ヲ有ッテ居ルタノデゴザイマスルガ、財政上ノ都合ガゴザイマシテ、今年度ハ豫算ニ計上シマシタ程度ニ止ッタ次第デゴザイマス、併シ御趣旨ノ點ハ農林當局ト致シマシテモ十分諒ト致シマス次第デゴザイマスカラ、是ガ解決ノ爲ニ今後力ヲ盡ス積リデゴザイマス、之ヲ以テ御答ト致シマス

〔國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇〕

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 水産ニ關シマスル調査研究ノ不十分ナル點ニ付テノ御

注意、洵ニ感銘ニ堪ヘナイ所デアリマス、併シ樺太ニ於キマスル特殊漁業ニ付キマシテモ、亦朝鮮ニ於キマスル明太魚又ハ鰺、其他公海方面ニ於キマスル鰺ナドニ付テモ、又臺灣ヲ中心ト致シマスル鮪、鰹、ソレカラ南洋ニ於キマスル鰹、鮪ナドニ於キマスル調査ニ付キマシテハ、比較的調査ガ行届イテ居ルヤウナ風ニ感じテ居リマス、併ナガラ今日ノ調査ヲ以テ、無論十分ト申ス譯デハゴザイマセヌノデ、一層此點ニ付テハ努力シナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、唯忘レラレテ居リマスノハ、只今御質問ニナリマシタ南洋漁業ノ問題デアアルノデアリマス、御承知ノヤウニ南洋ニ向キマスル漁業ニ付キマシテハ、最近著シイ進歩ハ致シテ居リマスルケレドモ、尙ホ其基礎調査ニ於キマシテ、其施設ニ於キマシテ、又助成ニ於キマシテモ、必シモ十分ナリト申上ゲル譯ニ參リマセヌ、併シ今日ニ於キマシテモ、尙ホ臺灣又ハ香港ヲ根據地トシ、又ハ新嘉坡ヲ根據地トシ、或ハ濠洲ヲ根據地トシ、更ニ進ンデハ東部阿弗利加、或ハ墨西哥、亞爾然丁等ヲ根據地ト致シマシテ、數千ノ我ガ勇敢ナル漁夫ガ、數千湮ニ互ッテ漁業ヲ營ンデ居リマスル其勇壯ナル活動ニ付キマシテハ、私ハ絶エズ敬意ヲ拂ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ只今申シマシタ通り、是等ノ漁業ノ助成等ニ付キマシテハ、今後大ニ考ヘナケレバナラヌ點ガアルト思ウテ居リマス、又南洋ニ於キマスル漁業ノ根據地ノコトニ關シテノ御質

議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時三十八分散會

問デゴザイマシタガ、是ハ昨年漸ク漁港修築ガ成リマシタノデアリマスルガ、今後更ニ其方面ニ向ッテノ漁港ノ修築ノ必要ヲ感ゼザルヲ得ナイノデアリマス、昨今ニ至リマシテ、臺灣ニ於キマシテハ、臺灣照南丸ヲ南洋ノ方ニ向ケ、又南洋群島ニ於キマシテモ、試験船ヲ表南洋ニ向ケマシテ、漸次表南洋ニ付テノ調査ヲ正確ニ致シタイト計畫中デゴザイマス、尙ホ實際ノ有様カラ申シマスルト、今日表南洋ニ於キマスル漁業ハ、共同漁業ノ著シイ進出ト南洋興發ノ進出トニ依リマシテ、著シキ活動ヲ呈シテ居ルト云フ事柄ヲ申上ゲテ、私ノ御答辯ヲ終リタイト思ヒマス

○議長(濱田國松君) 質疑ハ是ニテ終了致シマシタ、兩案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス

○青木雷三郎君 日程第三及第四ノ兩案ハ、一括シテ政府提出、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外一件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○青木雷三郎君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異

衆議院議事速記第八號中正誤

頁 段 行 誤 正

一三九 三二四 配當所得稅 配當所得